男女貞潔之理想　公娼廢止之主張

會長　島田三郎　副會長　安部磯雄

3—819

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）（大正五年八月一日納本）（毎月一回一日發行）

廓清

第六卷第八號

■廓清時言……伊藤江南
□結婚の目的と遺傳……早大教授　安部磯雄
■感謝の生活……女高師教授　大江壽美子
□裏長屋の精神修養……三輪田高女校長　三輪田元道
□男女の地位に就て……女醫學校長　吉岡彌生
■英國廓清會發達史……橫山桐雲
□一夫一婦の道……文學博士　井上哲次郎
■天鼓の響き……梅翁
□家庭生活の廓清……大阪青年會主事　グリスン
□嗚呼山室夫人……鐵道青年會主理　益富政助
■熱血紅涙……同志の聲
□警視廳の新方針……警視廳保安部長　丸山鶴吉
■廓清春秋……河合北洲

東京　廓清會本部　發行

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

◉御注文の際は必ず雑誌『廓清』による旨申添を乞ふ◉

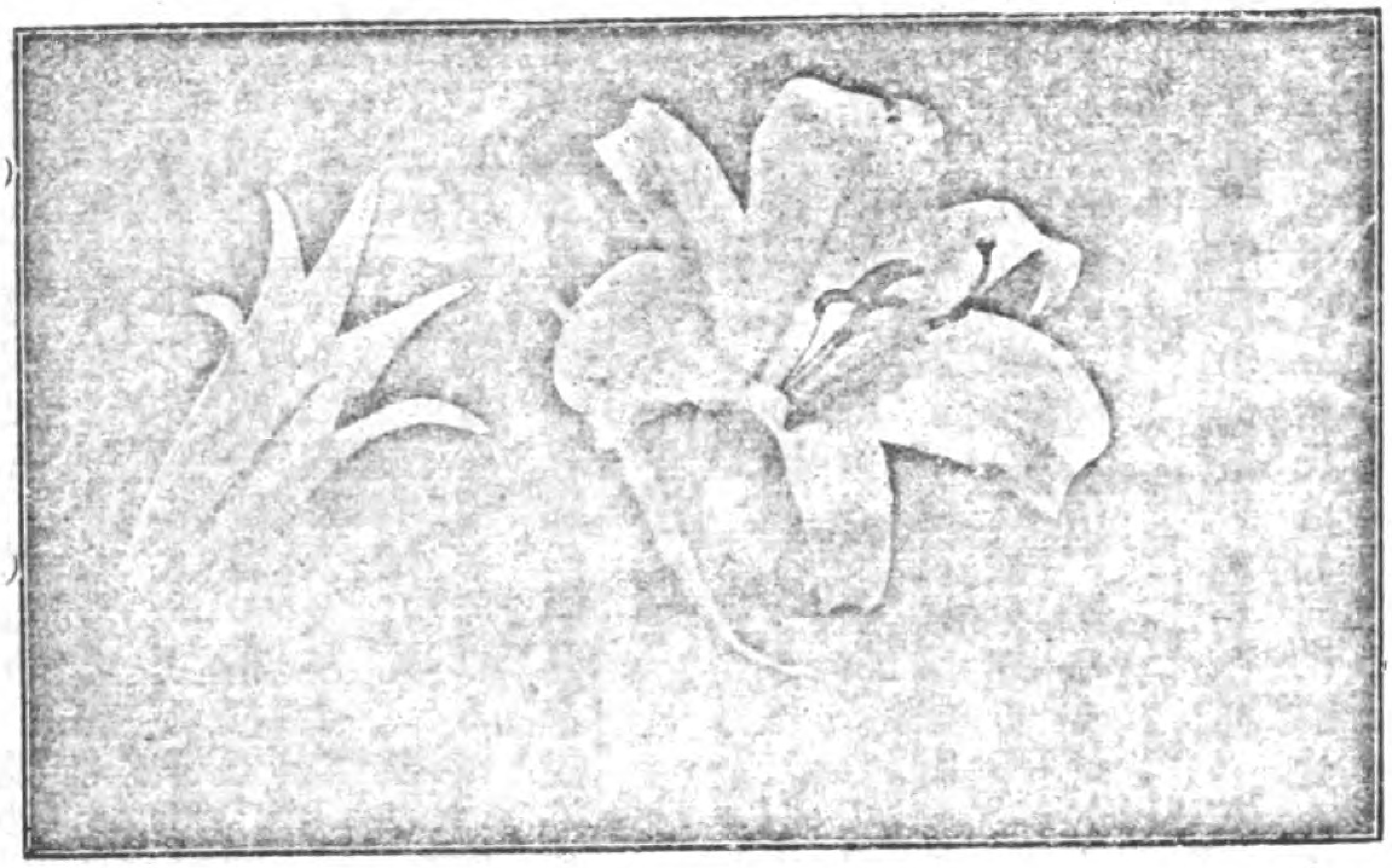
食後寝前に試みる
ライオン水歯磨の口腔含嗽

暑中の涼快！

旅行携帯に適する
ライオン煉歯磨の歯牙清掃

本舗　小林富次郎　東京

廓清
THE PURITY.
大正五年八月
第六巻第八號



廓清時言

花の日會の私娼救濟

儚なき虚榮の爲めに種々の婦人會に列り乍ら、白襟紋付にて押廻はすのみにて何等人生に貢献する處なく。同性の甚しき凌辱を見ては嘲り、慟哭を聞いては笑ひ、藝妓と稱する私娼と伍しては服裝を競ひ、男子不品行の公許の爲めに自己の地位の國家によりて輕蔑せられつゝあるを顧みざる、憫れむべき現代の所謂貴婦人中にありて、今回花の日會が進んで私娼救濟の任に當らんとしつゝあるは、吾人の歡喜に堪へざる處ならずんば非ず。

吾人は其事業の成功を茲に熱望すると共に、一層悲慘なる奴隷の境遇にある公娼の救濟に當り、進んでは同性侮辱の公娼制度の廢止に當り、更に進んで賣笑婦に墮落せんとする者、男子の誘惑に陥らんとする者を未然に防ぐ、英國の彼の雪の花會の如くならん事を、切望の情に堪へざる也

男子閥破壞の第一歩

今回婦人の理學士を見るに至りたるは、事小なるに似て實は重要なる婦人問題也。女子の大學教育を否定せんとする現代に於て、殊に婦人として天分少しと見られたる理學の方面に、男子と伍して遜色を見ざる二人の試金石を得たることは、女子教育の前途に光明を點じたるものとして、婦人全體が之に感謝し、歡喜すべき事に屬す。

思ふに男子閥の破壞は教育の門戸よりせざる可からず、婦人解放の第一歩は此處より始まらむ。喜ぶべき哉。

純潔清凉なる避暑地

長野縣の輕井澤は西洋人の避暑地として有名なるが、日本人も少からず入り込む事とて、十數年來藝妓設置の運動あり二三年前の如きは殆んど實現せん形勢なりし爲め、島田會長は嘗を長野縣知事に送りて之を阻止したる事もありしが、本年に至り、外人避暑團長等の請願によりて、縣當局は同地を調査し本會員たる同地有力者等の建言を納れて、同地にては全然酌婦を許さゞる事となり、内外人及び土着の人を合せ六千人を有する町に於て、一人の賣笑婦なく、爲めに醉漢の放歌も聞へず、全く清淨なる都會を現じ居れるは、愉快なる現象なり。斯かる時何者の痴漢か存娼の必要を說くや。

敢て存娼論者に問ふ

公娼制度が正義人道の上より廢止すべきは言を俟たざれども、公衆衛生の立場に於て、社會の安全辨として又止むを得ざる制度なりとなす存娼論者よ。諸君は廢娼縣たる群馬縣の今次の壯丁檢査に於ける花柳病の成績を知るや。

縣下に於て最も私娼多く、病毒猖獗なるが如く誣ひられつゝある前橋市に於ける、過日の檢査に於ては、壯丁三百七十四人の内、一人の梅毒患者すらあらざりし也。僅に痲疾患者七名ありたるのみなる事實を諸氏は如何に解せんとする乎。

飛田問題に倦む勿れ

熱し易くして冷め易きは邦人の弊と稱せらる、飛田遊廓設置に對する各地正義の聲は頗る高うして、意を强うするに足りたるに、人の噂の七十五日も過ぎて四ケ月後の今日、言論文章悉く沈滯して、旣に忘れられんとしつゝあるに似たるは遺憾千萬也。

論議の忘らるゝと共に事實の閑却せらるゝならば卽ち可、問題は消滅して事實は着々進捗しつゝあるに至つては、嘗に問題としたる意義何處にありや。吾人は常に正義の間歇的なるに比し、惡魔の間斷なきを怖る。希くば全國の會員諸君大阪の同志を鼓舞して、光榮ある義戰の凱歌を三唱せん。

貸座敷業者と銘酒店業者とに

今回警視廳の新方針によりて、相等しく奴隷賣買業者たり相等しく淫賣の上前を剝ねる醜惡無慚の貸座敷業と、銘酒店業とが、一は渴餠の水を得たるが如く、一は靑菜に鹽を撒りたるが如くなるは、社會の病的現象也。

乍併喜ぶ者必ずしも幸ならず、悲しむ者必ずしも禍ならず、眞實なる幸福、價値ある生活は、一に諸君の正業に就く事によりて得らる。思ふに今日は諸君にとりて最も廢業に適當なる機會なり。諸君の爲めに幾何の人が產を失ひ、幾何の人が牢獄に泣き、幾何の人が恨みて死し、幾何の人が家庭を破られつるや。半夜人定まつて靜思一番せば諸君と雖も悔恨の淚なしと云はんや。諸君は先づ自らの子女を思へ。將來賣淫の媒合が安全に行はるべき時代の來るべき理なく、英國に行はるゝ笞刑を以て諸君を脅かすの時期は敢て遠からじ。

槿花一朝の榮に喜ぶ者、鐵鞭亂下に狼狽する者、相共に三考せよ。而して此の絕好の機會に於て諸君の家族の眞の幸福と眞の救濟の手を逸せざれ。（江南）

結婚の目的と遺傳

早稻田大學教授
廓清會副會長　安部磯雄

□結婚の目的は戀愛なりや

人間の結婚には戀愛がなくてはならぬ。若も戀愛がなくて結婚することがあるならば、其は大なる間違である。否大なる人生の不幸である。然し戀愛があれば外に何も考へないでよからうか。戀愛にのみ重きを置いて他を顧みないと云ふ事も大なる間違ではあるまいか。近世の文學を觀ると多く皆戀愛を書いて居る。若も今の文學中より戀愛を取去つたならば殘る所は幾何もないことになる。故に近代の青年は戀愛を以つて結婚の第一の要素となし、結婚は戀愛を滿足せしむるを以つて目的とするものであると思つて居るが、是は大なる間違である。結婚なる者は吾々人類が其種族を繼續するを以つて目的とするものである。そして吾々と同じ物を繼續させて、どこまでも同じ物を後世に遺して行くと云ふのではない。自分よりも善い物を殘して行くと云ふことが結婚の目的であると思ふ。然るに今の青年は單に戀愛のみを考へて、吾々よりも進んだる子孫を殘して行くと云ふ最も大切なる目的を考へる餘裕がなくなつて居るのは大なる間違である。結婚なる者は自分よりも善い人種を殘すのが目的であるが故に、戀愛以外に遺傳と云ふ事を考へねばならぬことゝなるのである。由つて遺傳に就て聊さゝか御話しをする。

□家庭の幸福は子供の如何にある

吾々家庭の幸福の十中八九までは子供にある。子供が善く出來たと思ふ時に吾々は幸福を感ずる。之に反し子供が如何にも劣等に出來たと思ふ時には家庭は決して幸福ではない。故に子供の善惡は吾々の幸福に大なる關係を有して居る。されば結婚に就ては出來る子供の事を考へて爲さねばならぬ。然るに此事を度外視して結婚せるが爲に、大に後悔をなす人が出來る。中には今まで行つた事が甚だ惡つたから、更にやり直しをしたいと思ふ人もある。恰も出版した書籍の第一版が意に滿たなかつたから、更に訂正して第二版を出す樣に、結婚後の生活をやり直したいと思ふ人もあるが、若も若い中なら改版出直しも出來やうが、老年になつてからでは迚も出來ない事である。殊に子供が多く出來てからでは改版の效がなくなつて終ふ。故に始めより子供の事に就いて考へた上結婚をする樣にしたい。そして子供の善惡は半ば以上親よりの遺傳によることであるが故に、先づ此の遺傳の事を注意せなければならぬ。親の容貌又は性癖が其子に遺傳すると云ふ事は誰も知つて居る事であるが、單に容貌が似るとか、性癖の

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

一部を傳へると云ふだけではない。子供の身體の强弱も智力の賢愚も或は音聲等の微細の點まで遺傳が影況する者である。故に善い强い子供を得んとせば、其等の善點を備へたる者を配偶に撰擇せねばならぬ事となるのである。

□遺傳の適例

私はさう云ふとおかしいが、是でも若い時には相當の高等敎育を受けたのである。然し其際は今日の如く敎育が完備して居なかつたから、缺點があつた。其は美術的と音樂的方面の學科がなかつたことである。故に私は音樂も出來ず、繪畫の智識も無かつたのである。其後米國に往つた時、丁度私が二十五歲の時であつたが、其時どうかして音樂を稽古して見ようと思つて種々試みたが、到底駄目であつた。それから今日では子寶が澤山あつて女子が五人、男子が二人ある樣になつた。女子は音樂の嗜みが無くてはいかぬと思つて、オルガンなぞも買つて頗る奬勵したが、私の子供には音樂の上手な者はない。繪畫の方も同樣に駄目である。男子の方も女子と同樣に學校の成績が總ての學科は甲でも、繪畫と音樂的方面は乙である。自分は常に、外の物さヘ出來れば音樂ならば唯習ひさへすれば誰にも出來る者であると考へて、習はなかつたが、其が私の子供に遺傳したのである。尚一つ音聲までが遺傳して居る。私は音聲が惡い。其原因は常に二百餘人の生徒に向つて講義をするので、大きな聲を發しなければ隅々の人々までに聞えぬので、常に大きな聲を出して居るので自然に咽喉が惡くなつたのである。所が音聲なぞは遺傳しさうもないものであると思ふに、私の子供は皆私の惡い音聲が遺傳した者と見え矢張咽喉が惡い。六七人の子供の内扁桃腺を切斷して、咽喉の治療をした者が三人もある。從つて聲が惡く、聲樂などは無論駄目である。之を思ふと遺傳ほど恐ろしい者はない。然し單に惡い所ばかり遺傳したのではない。體格に就いて、私の樣に遺傳して居るから私は悲觀はせぬ。善良なる所も同父は武士の階級であるから、私は子供の時から武道を練習させられた。殊に父は藩の柔道師範で自分の所に柔道の道場を設けてあつて、其處に他人も習ひに來たが、私はまだ七歲か八歲位の幼年の時から其處へ出て稽古したので、親の遺傳と稽古とで身體が頗る强壯になつた。智識の點に於ても親よりの遺傳であることは少しも疑はれない。私の體格が丈夫であるから、子供等に其が遺傳して身體は非常に丈夫である。斯くの如くに親の體格性癖等の微細なる點まで遺傳するのであるから、結婚に就ては此事を考へねばならぬのである。

□配偶を撰ぶの第一要件

世の中には身體の事などを考へないで結婚する人もあつて其が爲に虛弱な子を得て非常に困つて居る人もある。私の知合の人の妻君が私の妻にかう云ふ事を言はれた。『私の子供は三人ありましたが、其中二人は弱くて死んで終ひました。今、一人は生存して居ますが、其身體が弱いので、其が私共の苦痛の種となつて居ります、自分は惡い事をした事はない。神の前に疚しい事をした覺えはないが、神樣はなせ私共に這麼弱い子をお與へなすつたのでせうか』と歎息をせられた事が

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ある。私の妻も之には少からず同情したが、其人は夫婦とも弱いから、其が遺傳して子供が弱く出來たので、其の點に爲ると品性を正しくしても信仰を強くしても、決して此の遺傳の法則を破ることは出來ない。此法則は神に願つても破ることは出來ないのである。故に結婚をするには第一に健全なる體格と、優れたる智力と、崇高なる品性とを子孫に遺傳する爲に、相手に要求する所がなくてはならぬ。どれだけの寶を積んでも、どれ程高い位に上つても子供が凡才であり、其身體が弱かつたならば、其富、其位はどれだけの幸福を其人に與へようか。子供がなくつて幸福を得ることが出來ると言ふならば、私は其實例を示して貰ひたい。已に子供の善良で強壯なることが吾等家庭幸福の基であるとすれば、善い強い子供を得る樣に、妻や夫を選擇する事が必要であると思ふ。少しく遺傳と云ふ事を心に置いて、結婚をせなければならぬと思ふ。然し現今の世の中には妻を撰び、夫を擇むに當つて此點に注意する人が幾人あらうか。私は其甚だ少き事を痛歎するのである。

□梅毒は子孫に遺傳する

私共は廓清會なる者を組織して、公娼廢止の大運動をやつて居るが、此事に就ても誤解して居る人がある。世人の中には『公娼制度は惡病の傳播を防ぐ爲であるのに、之を破ると云ふは如何なる譯であるか』と云ふて居る者もある。然も是は誤解である。吾等は梅毒を撲滅したい。若も公娼制度が梅毒を撲滅するが爲であるならば、公娼制度存在の理由がある。人道上より考へるならば、五萬人からの我等の同胞を犧牲に供して、あゝ云ふ事をなさしめて置く事は、吾等は決して默視することは出來ぬが、人道を外にして考へ、あれが爲に梅毒なる者を悉く撲滅する事が出來るならば、公娼制度も善からう。然しながら今日の檢黴法では到底梅毒を防ぐ事は出來ない。松浦博士は、今の檢黴法は恰も一封の昇汞水を大洋の中に投じたるが如くで、何等の效がないと言つて居る。私共は之を信じて居る。然らば公娼制度なるものは有害無用の者となるので、之をして存在せしむるは實に不都合極る事であるから、斷然之を廢止し、無垢なる青年男女をあゝ云ふ惡い中に陷しいれない樣にしたいと云ふ事が廓清會の目的である。穢ない所は我々の耳にも聞えず、我々の目にも觸れざる樣にし、男女の關係に就ても適當の考を持つて貰ひたい。殊に公娼制度がある爲に梅毒の傳播を助け、爲に病毒を子孫に遺傳するに至つては實に寒心すべきである。若も人々が眞面目に此の問題を考へ、かゝる惡制度を全然廢止したならば、道德はどの位發達するか、人種はどの位發達するか分らない事であると思ふ。

□歐洲人の墮落

歐洲では戰爭で澤山の人が死んだので、之を補充するには如何にしたなら善からうかと、其筋の人々は心配して居る。そして基督敎の說などを苦く守つて居ては、到底人口は增加しないから、男女の交際を今少し寛大にして、今少し自由にしたなら善からうと云ふ人もある。然しかうして生れた子供

は如何なる人になるであらうか。品物でも粗製濫造は決して善良な物を得る所以でない、とすれば、まして人間の粗製濫造は決して善良な强壮な子孫を得る所以でない事は云ふまでもない。いくら人口が減つても、男女の間の交際を亂雜にして之を補充せんとせるは實に道德を無視した話で、彼等白人が墮落をした證據である。我等黄人種は此間に於て益々善良なる人種を造ることが出來て、今までは總ての點に於て白人に負けて居たが、是からは決して彼等に負ける事はない。否、大に彼を負かすことが出來る。彼等は今人口補充を問題として居るが、我々は單に人口問題ではない、優れた人を殘して行くと云ふ事を務めねばならぬ。是が日本人の態度でなければならぬ。隣りの火事を見て喜ぶのではないが、歐洲の戰亂は歐洲の人種をして劣等ならしめ、我國の人種をして益々優等ならしめ、遂に彼を凌駕するに至らしめるだらうと思ふて我々は喜ばねばならぬ。金力では今まで彼等に負けて居たが、其も往く／＼は大なる差はなくなるだらうが、今急に財政上裕かな位地に立つと云ふ事は六ケしいかも知れないが、人種に就いては彼等が粗製濫造をする間に、優良な人種を造つて行くので彼等を壓倒することは造作もない事である。若い人々は深い所を考へねばならぬ。金錢ならば幾らでも出來る。今日は幾らも成金家が出來たが、金錢なぞに迷つて結婚をしてはならぬ。吾々は人種を以つて競爭をせねばならぬのであるから、優良人種を造るに適したる者を撰擇して結婚せねばならぬ。あの家には金があるから嫁に貰はうとか、あの家は金満家だからあすこに嫁に往くのは幸福だとか、あの女は弱く、學問も少いが、あれの父が富んで居るから、まあ／＼善からうなど丶言つて、妄りに結婚し、之が爲に子々孫々までの墮落を來すのは誠に歎ずべき事である。

□美人の標準

親の性格が子に遺傳するのは、父母何れも同等である。世間では女の腹は借り物であるなど丶云ふて居るが、決して借り物ではない。男にも女にも同等の大なる遺傳力を持つて居るのであるから、男子が妻を撰擇するに當つては大に注意せなければならぬ。西洋では體格が强壮で、肉付が善く、色が紅く、歩行する時も力强く歩く人を美人として居るが、日本では、小造りな、色が紅くなく、却つて生白い、肩のこけた手足の細く血の氣のない様な、一寸見ても肺病患者でゞもありさうな者を以つて美人として居る。そして之を代表して居る者は所謂藝者である。日本の婦人が皆あの様になつたらどうであらうか。少し强い風が吹けば吹倒されさうな、如何にも無氣力で、且つヒステリー性に見える。あんな婦人の腹から出來た子は、必ず虚弱な、ヒステリー的な無氣力な者になる。青年男女は善く新しき理想に叶つた、遺傳の標準に叶つた者を撰擇する事が實に今日の緊要事であると共に、日本の美人の標準を今少し理論に叶つた處に置きたいと思ふ。

□鐵道旅行案內（鐵道院發行）年々夏期に鐵道院にて編纂せらるゝもので、各地の產業から名勝舊蹟は申迄もなく、あらゆる交通機關を說明しあり、旅行者探勝者等にとりては正に此上なき案內書で、年々完美の跡が見へ、地圖挿畫等多數にありて說明を助けてゐる。袖珍美本三三〇頁（定價一圓、日本橋區本町博文館にて發賣す）

一夫一婦の道

東京帝國大學教授
經濟會評議員　文學博士　井上哲次郎

□儒教佛教と一夫一婦

東洋には儒敎もあり佛敎もあつて、倫理道德の事に付ては色々に敎へてあるが、一夫一婦の道に就いては十分に說いた人はない、夫婦間の道德に付ては儒敎の中には大部見へる事は見へるが、一夫一婦が人倫の道であると明かに說いて居ないのみならず、其敎へは今日より見れば、幾分か現今に適當せぬ樣にも思はれる。中庸に『君子の道は端を夫婦に造す、其至れるに及んでや天地に察かなり』とある。是は夫婦の道が廣く關係を及ぼして居る事を言つたので、夫婦の道は大切であるに違ひないが、まだ一夫一婦でなければならぬと云ふ事は此中には說いてない。其外『寡妻に刑り兄弟に及ぼす』と詩經にある、寡德の妻なれども之をよく導いて、他の手本になる樣にして、漸次兄弟まで善くするの意であらうと思ふ是も惡い事ではないが、夫婦の道を說いた者としては幾分か不充分であると思はれる、しかのみならず是では蓄妾と云ふ事に就ては何等の定りがない、正妻の外に妾を蓄ふ事が惡いと云ふ事が儒敎中には缺乏して居ることは、實に遺憾である古代に於ては猶太でも希臘でも一夫一婦でなければならぬと云ふ考が不充分であつた。佛敎の方を見ると、是は一夫一婦の敎ではない。一夫一婦を必ずしも惡いとは言つてない。却つて佛敎の高い處に達するには獨身生活でなければならぬと說いてあつて、外の敎とは大に違つて居る。故に普通は佛敎家でも妻を貰ふが、名僧となるには獨身生活でなければ出來ぬと考へて之を實行したのである。孔孟の敎は一夫一婦を說いたが、蓄妾を禁ずると云ふ事は何處にもない。孔子孟子自身が妾を置いた事は勿論ないが、孟子には『齊人に一妻一妾にして生活して居た者があつた。』と云ふ事が書いてあり、孟子は之に就て何とも言つて居らぬ。要するに一夫一婦でなければならぬと云ふ說は東洋の道德上の敎としては傳はつて居らぬ。若も孔子が一夫一婦が人の道なりと明かに言つて置けば永い間東洋の敎となつて、力あることゝなるであらうが其が無つたから傳はらぬのである。

□經濟上よりの見解

東洋でも何處でも女子と云ふ者は、男子よりも低く見られたので、今日考ふる樣な一夫一婦の敎などはなく、男子は幾人の女を妻としても是は當然の事であると考へられて居たのである。從つて今日の如くに女子の地位を高めるとか、何とかするなどの議論はなかつたのである。然し今日以後の社會

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

はどうしても一夫一婦が、人間の道と考へねばならぬ。種々の點から考究して見るに、一夫一婦でなければならぬ樣に思ふ。何故にそうでなければならぬかと云ふに、今日まで其理由を詳細に說破した人はない。倫理學などの書籍にも書いてない。故に今日學說としては論ずる事はないが、唯其ヒントだけでも與へて見たいと思ふのである。

（一）第一經濟上よりして一夫一婦でなければ困ることになる。妻の外に妾を蓄へたり何かすると、子供の數が多くなる。天皇の事を申すは恐れ多いが、御一人だけを申せば、景行天皇には八十人の皇子があつた。一說には八十一人であるとも申されてある。一天萬乘の君であらせられるから、澤山皇子があらせられても決して構はぬ。生活に困るなど丶云ふ事はないが、普通の人で八十人も子供が出來ては困る。一夫多妻であつたなら或は是より以上出來る事があるかも知れぬ。今日の法律では一夫多妻は禁せられてあつて、法律上妻は一人より外はないが、妻に代る者は幾人でも出來る。妻の外に妻に似寄つた者を持つことが出來るのであるから、矢張一夫多妻と同樣に多くの子女が出來て、經濟上生活に困ることになる德川氏の十一代將軍は五十五人の子があつたと云ふ事である。此の五十五人の子の生母は十五人で、側室は二十人あつたと云ふ事である。二十人も妻があれば五十五人の子供は珍とするには足らぬ。ヘッケルは非常に多くの子供を持つた人の例を擧げて居る。又昨年の新聞には支那の袁世凱には三十人の子供があるが、其中五人が男子で、他は殘らず女子である。そして其妻の數は八人で、此中には西洋人もあれば、日本人もある。一體支那は多くの妾を蓄ふるを以て誇りとして居る國であるから八人位の妾を蓄へるのは珍らしくはない。且つ袁世凱は今大總統で居る間は三十人や四十人の子供があつても經濟上困ることも無からうが、若も之が普通の人なら大に困るであらうと思ふ。我國の元老の一人である人が、先帝陛下に『汝は子供が幾人あるか』とお尋ねになられた時、其數を覺えて居られなくて、御返事を申上る事が出來なかつたと申す事があるが、此元老は誰であつたか分らぬ。又一夫多妻と反對に、妾を置くと子が出來て、經濟上困るからと言つて、獨身生活をする人がある。是は獨身生活を希望するのではない。經濟上困るから仕方なしに獨身生活をして居るので、かう云ふ人が非常に多くなれば自分も困るが社會も困る故によく考へて世渡りをせねばならぬ。

□衛生上より見たる一夫多妻

（二）次には衛生上一夫一婦がよいと思ふ。世の諺に『雙斧孤兒を斬る』と云ふ事がある。此の雙つの斧とは酒と色とを指したのである。自分の妻の外に妾だの何のと云ふ樣な者を置く時は、其當人のエネルギーが放散して終ふので、自分の體が其が爲に弱つて肺病に罹つたり、心臟病などを引起したり、或は之が爲に花柳病などを引受けて、早死をする。故に多くの妾を置く事は衛生上大に害になる。彼の流連荒亡の樂みをなせば早死をするのは當然である。古今の偉人と云はれる者を視るに、吉田松陰なぞは三十歳未滿でも、壯んな人であつた。彼は自分でも『吾は酒も飲まねば煙草も喫はず、女

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

色に溺れる事もないと云つて居る。彼の行動、言語を見るに如何にも知力が一點に集つた樣な所がある。非常に强大なる力を以つて一方を貫いた樣な所がある。是は松陰が勢力を他に放散せなかつたからであると思ふ。此外獨身生活には偉い人がある。有名な武勇の達人宮本無三四なぞも獨身者であつた西洋の偉人ニユートンは哲學上科學上非常な大發見大發明をなした人であるが、彼も獨身生活であつた。鑛石分拆法を發見した有名なる化學家ブンセンも獨身者であつた。實は彼は一度結婚する筈で、式をハイデルベルヒの教會堂で行ふ事になつて居た。花嫁から關係の人々が其々盛裝して、ブンセンの來るのを待つて居つたが、時間になつても來ない。どうしたのであるかと思つて、人を以て呼びにやつた所が『今實驗をして居る所で、大事な所だから少し待つて吳れ』との事であつたが、結婚を他處にして實驗をして居る樣な者では眞平御免だと嫁の方から云出し、遂に破談になつて終つた。ブンセンは結句其を善い事にして其後一生涯獨身で暮したが、彼が此時結婚しなかつたのが、却つて彼が後年大發明をなすことに大なる利益があつたのであらう。此外スピノザー、ライプニツヒ、スペンサーの如きも、基督も皆獨身者であり、佛陀釋迦の如きも獨身者であつた。尤も佛陀は始め結婚した。其は彼が二十歲前後の事であつたが、妻を置去りにして山に入り佛道を修業して後、人間を濟度し、八十歲まで生きたのである。此等の人々は精神勢力を一點に集中して、以つて大事業を成した樣に見える。然し誰れでも偉大なる事をするには獨身者でなければならぬと云ふ譯ではない。經濟上、生理上結婚の出來ぬ者もあるから、獨身者であるからと言つて必ず偉い事をする人とは限らぬ。故に醫學者は獨身者を二通りに分つて居る。兎に角一家の係累などのない人は勢力を其方に分ける事がないから、事業をなすには都合がよい。妻を貰へば子供が出來るが、獨身で居れば其世話がないから、研究をなすにも、何をなすにも自由であり、便利が多い。宗教家も獨身の方が活動が出來る。佛教の僧侶は從來獨身者に定めてあつた。其を近來破つて終つた、僧侶自身は之れを喜んで居るが、あれは惡い事である。然しながら人々が皆無妻であつたならば人種は無くなつて終ふ。故に普通人は妻帶せねばならぬが、其には一夫一婦で無ければならぬ。若し多くの女に關係をつければ精神氣力を放散して、却つて當人も事業を爲す事も出來なくなれば、子供も弱い子供になるから、一夫一婦でなければならぬ。衛生上から考へてポリアンドリー(Polyandry)も行はれたが社會の爲に却つて惡いのである。

□一夫一婦と法律の關係

(三)第三は法律上から見て一夫一婦でなければならぬ。其に就て法律家は色々の例を擧げる事が出來る。即ち當人が亡くなつた時、子孫が法廷に財產爭とか、家督爭とかを訴へる其が爲に今まで世間より隱されて居た家內の醜穢を世に曝露させねばならぬ事になる。嘗て大きい家であつたが、本妻の子と妾腹の子とが財產と家督の爭ひを法廷に提起し、種々な高官な人なども法廷に呼出される事になり。悲むべき結果を生じた事がある。是は同じ子供であつても妻の子と妾の子と

の間に自然に愛情を生じ、其の愛されたる子が多くの遺產を貰ふ事になるからで、假りに十萬圓あるとすれば嫡子に悉皆與ふれば善いが、子供に色々あれば此十萬圓を色々に分配する。民法より見れば私生兒ならば本統の子供に分配する半分でよいのであると書いてあるが、父の遺言で之に多く與ふる事も出來る。故に一夫多妻で、多くの子が出來、其中に特に可愛い子があると其に多くを與へ、爲に自分の子に讓るべき物が減ずるのである。そこで法律上の爭ひともなり、裁判も受けねばならぬ事となるのである。法律上から見て、若し一夫一婦であつたならば、今日の財產爭の訴訟事件は必ず減ずるに違ひない。故に法律上から、一夫一婦を必要とするのである。

□道德より見たる一夫一婦

（四）次には道德上から考へて一夫一婦でなければならぬ。一夫一婦であれば第一家庭が平穩に治まつてゆく。其一夫一婦も互に厭で堪らぬ者を無理に押付けて夫婦にしたと云ふ樣で無つたならば、家庭は圓滿になるに違ひない。家庭が集つて社會が出來て居るのであるから、家庭に風波が絕え間ないと云ふ時は其社會は決して平和に治つては居らぬ。軒に巢をくつた雀の子を叩き落せば、其子は生長する事は出來ない。されば雀の子に取つてはあの巢はなか〱大事である。家庭なる者は子供の巢である。若も家庭に風波があれば雀の巢を引繰返した樣な物であるから、家庭は常に圓滿でなければならぬ。其には一夫一婦でなければならぬ。若し一夫一婦でなく、別に妾を蓄ふと云ふ時には家庭は圓滿には修まらぬ。人に由つては妻と妾とを一緒に置く人もあるが、如何に貞淑な婦人でも必ず其間には嫉妬心が起らぬ譯にはいかぬ。妾なる者は何とかして妻を追出し、自分が正妻にならうとする人もある。妻は又自分の位地を奪はれまいとして種々なる防禦策を講ずる。是に於て妻も妾も雙方とも惡化して來る。妻は妾を追ひ出さうとすれば、妾は妻の地位を乘取らんとする。其間にあつて之を見習ひて發育してゆく子女は如何なる影響を受けるであらうか。子女敎育上にも大なる惡影響を來すことは明かである。主人は道樂で何處からか白首を一人引込んで來る。すると家內には其が爲に面倒が起つて來る。遂に妻君は己の地位を奪はれんとする恐怖の爲にヒステリーを起した。ヒステリーの妻は世に澤山あるが、多くはこんな關係が原因をなして居る。主人は料理屋に飮みに行く、妻君は空房を守つて居る。あゝもう御歸りになりさうな者だなと待つて居る然れども遂に歸らずに夜が明けて終ふ。妻君たる者豈之に堪ゆ可けんや。閨の恨みは實に容易な者ではない。これが嵩じてヒステリーとなる。よく研究して見なければ分らぬが、家庭が圓滿であつてヒステリーになる者はあるまいと思ふ。又妻がヒステリーにならうが何にならうが、決して構はぬ夫は夫とは云はれない。人の夫をば良人とかく。妻に對して良い人の意味であらうが、妻を棄てゝ顧みない夫は良人とは言はれぬ、良人の名を彼等から取去らねばならぬ、其も古昔の樣に、正妻に子がない時に妾を蓄へるならば、家族制度の我國の如きでは理窟が立つかも知れぬが、正妻の子が澤山あるの

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

に、己が獸慾を充たさんが爲に妾を置くと云ふに至つては、斷じて許されぬ。又妾になる者の方から考へても、多くは獸の樣な低い精神の者がなる。己の肉を犧牲に供して生活すると云ふのであるから餘程低い精神の者でなければならぬ。主人が已に肉慾を擅にすると云ふ位の人間であるのに、又極めて低い精神の者が其妻となるのであるから、其間には高尙な精神がなくなつて、下劣極る精神が滿ち〳〵て、遂には高い精神の者がなくなり、社會が一般にルーズになる。人間は萬物の靈であるが故に、此靈を發揮せねばならぬのに飽くまでルーズになつて平氣で居ては、萬物の靈たる所以を失つて終ひ、人間でなくなる樣になるであらう。

□一夫多妻を促す諸因

西洋には藝妓と云ふ者はない。日本では之が名物となつて居る。此外に娼妓と云ふ者もある。此等藝妓だの娼妓だのと云ふ者が何時の間にか貴夫人となることがある。娼妓で立派な御方の奥樣になつた人がある。何處に居ると云ふ事は云はぬが居る。其人は宮廷にも這入る。一天萬乘の大切な所にも這入る。宮城と云ふ所は最も神聖であるべき筈であるのに、娼妓であつた者が憚りなく這入る。是は社會風敎の爲に餘程考へなければならぬ。斯くの如く醜業婦を社會が許して置くと云ふ事は一夫一婦主義の破壞である。社會の墮落である。吾々は一夫一婦主義を鼓吹すると共に、斯かる醜業婦の跋扈を制止しなければならぬ。又世間にはかう云ふ事を言ふ人がある。妻を幾度も〳〵取換えるのは其人の自由であつて、一時に多くの妻妾を置くのではないから、是は一夫一婦主義に戾らぬ」と云ふ。成程一夫一婦には違ひないが、是では全然妻を飼猫か何かを置く樣に考へるので、人道上何とも仕方がない。始めは可愛くて貰つても少し古くなると賣拂つて終ふ其が一遍や二遍ならまだしも、五遍も六遍も取換へる。十幾人か取換えた人を私は知つて居るが、是では一夫多妻と同じである。女を飼猫か何かの樣に心得て居るのであるから、女の方でボイコットを起してそんな者の妻になる人がなければよいが、幾人取換えても取換えても、其後に女が幾人でも這入つて來るからいけない。經濟上から見、衞生上から見、法律上から考へ、道德上から考へて、人間は一夫一婦でなければならぬ。又濫りに幾人も取換えるのも同樣に惡い。

□無限より無限への責任

そして此の一夫一婦主義を破り、社會を亂すものは、前にも言つた藝妓娼妓なぞの存在も、大なる原因をなして居るが之を促す物は外に小說がある。淫猥なる小說がある。此間も或小說が發行禁止になつたから、どんな物であるかと思つて參考の爲に讀んで見ると、いやはや實に話しにならぬ。其小說の筋書はこゝには言はぬが、如何にも慘酷な事ばかりを並べて、幾人でも之を殺して終ふ所が書いてあつた。又他の一つの小說は、吉田源次郎とか何とか云ふ副牧師があつて、二人の女を同時に愛する事が書いてあつた。こんな小說は百遍讀んだつて敎育にも何にもならぬ。讀めば讀む程害になるこも益にはならぬ。こんな出版物は隙潰しには可からうが、餘

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

りに不自然である。社會に對してかゝる不自然なる者は何等の必要はない。尤も同じ小說と云つても中には實に偉い物、善い物もあるから、一概に非難は出來ぬが、淫猥であるか、慘酷であるか、極めて不自然な小說は大なる害がある。內田魯庵君が話した事がある。あの『眞人間』と題する脚本は大阪では不都合なく行つて來たが、其を東京で興行したら禁止になつたとの事である。演劇なども往々社會に害毒を流すことがあるから、大に注意し、健全なる道を辿つて、眞面目な穩健な人間となる樣に誘導していかねばならぬ。唯目の前の事ばかりを考へてはならぬ。無限の後までを考へ、千年萬年の後までを考へねばならぬ。今は無限の古より無限の未來にゆく中間であるから、今善い方に向つて進まなかつたならば未來に於てどんなに惡くなるか分らぬ。故に今に於て日本國民を善い方に導かねばならぬ。廣き世界を見ると、日本は如何にも狹い。然し此の狹い日本でなした物でも全世界に響くのである。されば吾等は善い方向に向つて努力し、貢献せねばならぬ。今一夫一婦の問題に就ても、儒敎では明かに惡いとは言つて居ない。佛敎でも尙此問題は解決して居ないが、私の見る所を以てすれば、一夫一婦は實に天理であると思ふが故に之を鼓吹したいと思ふ。然し今日の實際上を見れば、日本の社會ではまだ一夫一婦の眞理なる事を知らぬ人があるのみならず、或は已に知つても尙之を實行せぬ人もあるが、是は其人一人の爲に惡いのみならず、社會の爲、後世の爲に害を流す事になるから、吾々は大に此主義を以て社會を覺醒せしめたいと思ふ。そして妾を蓄へて居る人々をして悉く之を解放せしめ、日本の社會に蓄妾なる惡い習慣を滅絕して終ひたいのである。殊に日本では下流中流社會の人には此の風俗はないが、社會の儀表たるべき上流社會の人々の間に蓄妾の風が今でも行はれて居て、括として之を恥ぢざるに至つては實に痛歎すべきである。

臨時 **休刊廣告**

例年の通り『廓淸』九月號を休刊し、十月號を倍號とす。

特に本年に於ける十月の特別號が、如何なる新裝を凝らし、如何に堂々たる姿を以て諸君の面前に現るべきか、乞ふ刮目して待たれよ。

大正五年八月　廓淸會本部

噫小田川優子女史

大正五年四月十九日

本會員小田川優子女史は七十八の高齡を以て溘焉長逝せらる。哀悼の情に堪へず謹んで弔意を表す。

女史は社會風敎の爲め、生前常に盡瘁せられつゝあつたのであるが、而も特に本會に若干金を寄附すべき遺言せられたる由にて、遺族の方より金三十圓を寄附せられた。

死に臨んで、尙ほ本會の上を念とし此事ありたるは、吾人の感慨禁ずる能はざる處にして、感謝の情に堪へず、誓つて其英靈に應へ奉らん事を期す。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓淸の根本と家庭生活

大阪基督敎青年會主事　グリーソン

□社會の罪惡は家庭に生る

今年の一月から十二年前に東京の御所に於て一ツの大切なる協議會が開かれ、總理大臣を初め陸軍省からも海軍省からも偉い方々が　天皇陛下の御前に參集し日露の問題を協議致されました。種々意見を申上られましたが、戰ふか屈從するかどう決心するかと皆な非常に困つて沈默つて居た、其時に　天皇陛下が一言葉「戰ふ。」と仰せ給ふたので、直ちに日本は露西亞に向つて宣戰する決心がきまりました。

今日諸君は社會改良のお話を御聽きなさいまして、充分心の中で考へて大いに決心をして戴きたい。戰ふ方面は最早定まつてあります。此際決心して戰ひますか或は此の誘惑に負けて屈從しますか、此れは諸君青年男女にとつて最も重大なる問題であります。

歐洲戰爭が終結致ますなれば、此社會の物質上に思想上に乃至は生活上に大なる變化が來る事は明かであります。その時に當つて私共は同心協力して聖き戰爭をせなければ此の社會は腐敗し、國家は爲めに滅亡せざるを得ないと思ひます。本誌に掲げられた山室大佐の娼妓三百人研究を讀みました時に、私が第一番に知りたいと思つた事は、此等三百人の婦人が何故に如何なる原因によつて、如斯卑しい醜業の生活に陷つたかといふ事であつた。自分の墮落の結果姙娠して來た者が九名、親か病氣したり或は親が家族を養ふことが出來ないので、生活に困窮した結果から來た者が百五十八名あるのを發見致ました。如斯家庭に於て其息女が墮落したり、或は兩親が其小供を充分に養育し之を敎育することが出來ないと云ふのは、兩親の不注意無思慮から起る悲慘なる結果でありまして、社會に於ける罪惡臭穢は家庭の不完全或は無思慮なる兩親の生み出す者である事を判斷する事が出來る。

□廓淸の根本は家庭に在り

如斯廓淸の眞意を徹底せしめ社會を純潔ならしめんと思ふなれば、先づ家庭を潔めなければなりませぬ。大阪市に於ける遊廓に遊びに行く人數を調査致ますと、一ケ年に約百七十萬人あります。卽ち大阪全市民が一年に平均一度登樓する事になる。其遊客は家庭を持て居る人もあり、又血氣の青年もありますが、夫婦の者なれば其家庭の折合ひが惡く圓滿を缺くからでありまして、青年なれば子供の時其育てられたる兩親の品行が不良にして家庭が紊亂して居つたからであります。一方遊廓の持主又は待合貸座敷の主人は、如何いふ考で其麼不潔な商賣を營業して居るのでありませうか。又其人は人間殊に婦人に對して如何いふ觀念を持て居るのでありましやうか、實に私共の了解に苦しむ所であります。恐らくは人間ではない動物である。高等動物を使つて金もうけして居る位にしか考へないらしく思はれる、若し子供の時から御互人間は神の子であつて如何なる境遇に沈倫して非慘なる運命に捕はれて居る者でも苟くも人間なる限りは尊敬し相愛せなければならぬ事を知らないからで本當に人間の尊い所以を了解したなれば決して斯如非人道的な商賣は出來ない筈である。

諸君、私は此所に女子が如何なる事情があつても決して娼妓にならない、青年は如何なる誘惑が來ても斷じて遊びに行かない樣に、又如何に金儲けがしたいか

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

らと言つても穢い商賣はせない樣に、即ち社會の罪惡を廓淸し國家の風教を振肅せしめ、高潔ならしめんと欲するならば先づ其家庭を純潔にし、圓滿なるホームを形作つて子女の教育を完全ならしめなければならぬ。即ち廓淸の根本は家庭を高潔ならしむるに存する事を切言致します

□結婚に對する準備と覺悟

私は暫時の間諸君と共に實際的に此問題に就て研究したいと思ひます。私は此れに就て二十年以前から只管研究しましたが或程度まで考へられると信じますからそれを御話し申上ます。若し間違つたなれば書面なり或は御訪問下さいまして御教へを願ひたいと存じます。若し間違つて居ないならば早速諸君の家庭に應用し實行して載きたいのであります。

廓淸的家庭教育に就て五ツの事を申上ます。第一、未結婚の青年男女諸君に申上たい。諸君は男子が夫人を迎へ女子が夫を迎ふる時如何致ますか？私は何時か友人が結婚致ます其三日前に呼びまして此事を尋ねました『貴君は三日致ますと一人の娘を貰つて家庭を作るのでありますが、貴君は奥樣の取扱ひ方を研究しましたか？牧師から聞ましたか？親から教られましたか？友人から聞ましたか？』と尋ましたら彼は『何事も知りません』と答へました。『何！知らずして如何して三日後に結婚しますか！取扱を知らんで如何致ますか？』私は非情に同情致まして自分の研究した結果を二三十分間忠告しました。友人は涙を流して喜び感謝致して居ました。諸君は奥樣を迎へ或は夫を迎ふるに當つて充分取扱方を研究して置く必要があります。さもなくば礎なしの家を建てるのと同樣、永久に安全を期する事、眞の幸福を味ふ事は出來ないと信じます。

第二、諸君は結婚しても家庭の幸福を保證する爲に充分に經濟上の安全を期せなければなりません。又生命保險か付して妻子の安全を保證して置く必要が有ます。經驗に薄き諸君は自ら熟考すると共に醫師に親に或は友人に、又は牧師に就て充分研究して置かなければなりません。

□淸き家庭に有爲の子生る

第三、結婚してから子が出來るまでの事を申上たい。普通の人は生殖即ち子を生むことを本能の自然に任して置くらしいが、それは大なる誤解である、牛や馬を飼ふ人すら此問題に就ては充分注意し研究實驗して居ますが、苟くも私共人間は一層の注意と愼重なる態度を以てせなければならぬ筈でありますのに隨分無頓着で、見苦しいだらしのない者が多い樣です。斯樣な有樣で立派な有爲な人間が出來そうな筈がありません。私共は此點に深く覺醒致ませんでは、神樣に善且忠なる僕として奉仕するとは出來ない。

私が大學の二年生の時に一冊の書物を讀ました、それはアメリカの或る傳道師が南洋の野蠻人の中に行つて傳道の苦心を甞めて居ました、其人が行く前に奥樣をもらひましたが、行つて間も無く夫人が子を生みました、野蠻界の事ですから醫師の手當もせんすべもなく、さう／＼神樣の御事業の爲に奥樣を死してしまひました。私はこゝまで讀んでさう／＼絕え切れなくなつて其書物を棄てました、そんな危險な處へ弱い婦人を連れて行つた、此の傳道師の非常識には賛成する事は出來ない。

私共は先づ子供が充分丈夫に育つて身も靈も健全にして立派なる人となり得るや否やを研究して神に祈つて生む事が必要であります。

青年諸君更に一言加へたい事は子は父母の生活及び境遇によつて、其人となりに多大の影響を及ぼすは生物學上明かな事

實であります。私は或人から立派な總ての點に潔き家庭を作るなれば必ず立派な子供が出來る事を聽きました。

又女は子を妊娠致して居ります間は、苦痛しますから多少氣が變になるもので其時に一層親切にし、いたはるなれば健全なる子供が出來ます。

□子供に對する教育

小供の教育を觀ますのに、日本人は小供に對して親切なる事は認められますが、養育仕方を研究せない傾向がありはしますまいか、小供は二三才までは一向物心を知らずに大きくなりますが、四五才にも成長しますと非常に知識欲が盛になつて、物事に注意深く種々の質問を親にする者であります。所が大底の親は『姦しい邪魔になる！』『あちらへ行つておいでなさい！』と云つて叱り付ます、之れは甚だ不心得な事である。

『雨はどこから來ます？』『大陽樣はどこから？』『海は何？』實に五月蠅樣ですが親たる者は親切に愛を以て敎へ導く丈の心得がなくてはならぬ。

又小供の質問に對しては成可くゴマカシを言つてはならぬ事で、例へば『私の妹は何所から來ますか？』と聞かれたら如何答へますか？『木の俣から……』と申ますか、私の國では『鶴が持つて來た。』或は『天から落ちて來た。』等と申ますが之れは僞の大なる者であります。

そこで眞に子供は神より授られたる聖き者であると思ふならば、寧ろ『お母さんの腹から來た、神樣が數ケ月の間お母樣のお腹の中に留給ひました。』と誠を以て敎へますならば、小供は面白おかしく思ふよりも寧ろ嚴肅な心地して母親を敬愛する樣になる。若しも女の小供であるなれば又自分も母親となつて子供を生むべき者、聖き者立派なる子供を世に與へる者であるから、食べる物にも氣を付け、良く運動し衛生にも注意して丈夫な身體と聖き靈を得やうとするでしやう。

若し男にして大きくなるなれば母親は自分の爲に大なる犠牲者であつた事を知り、且有難く思つて之を尊敬するは勿論、總ての婦人に親切丁寧となるでしやう

□家庭の幸福と經濟

第四、どういふ風にして模範的の家庭を作るか、前に申ました通り經濟的の基礎を鞏固ならしめなければなりません。

日本の敎訓にも衣食足つて禮節を知るとあります如く、經濟的に獨立しなければ立派幸福なる家庭を作る事は出來ない、されば靑年諸君は能ふ限り質素儉約を旨とし、勤勞せなければなりません。若し此の覺悟がないならば一生涯不遇に泣かなければなりませんでしやう。

私は大阪に居る一人の學士を知つて居ます。其人は學生の時代にお父樣の葬儀に金を借り、更に友人のすゝめで妻君をもらつた時に、又借金が重れました、さうしてそれが六千圓程になりして、現今八十圓程月給をもらつて居ますが、非常に困難致して居ます。佐島さんは氣の毒に思つて月賦で返す方法を講じてあげられましたが、如斯きは最も注意すべき事柄であります。

更に理想的の家庭には美術がなければなりません。アメリカの或成金が黄金にあかして立派な邸宅を建て、技師を呼んで種々の裝飾や間取を致まして書齋を作り、澤山の書物を買入ましたが、本棚よりも書物の方が一寸程長くて這入りませんから非常に困つた。其時此家の主人は紙屋を呼んで長い部分だけ切らせまして、至極美術的に書棚を飾つたと言ふことです。私は其樣な非常識な美術には贊成出來ませんが、質素にして高尙なる美術を有することは、家庭を高潔ならしむるに必要であると思ます。

□客の接待に就て

更に日本の風習に反對したい事は、若

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

し友人が來るなれば必ず料理屋に行つて、怪しい藝者を呼んで歡迎致しますが、此れは眞實にいけない事です。諸君若し家が不潔でいけないと思ふなれば充分掃除したら如何ですか、若し奥様の御料理が下手でもてなすに足らないと不平なれば、そんな奥様をなせお貰ひになりました。諸君が模範的な立派な家庭を作らうと思ふなれば、奥様や息子娘と共に客を迎へる事が必要であります。此れは小供をして立派な人々に接せしめ、知らず知らず良き感化を受けしむる最もよき敎育法であると思ます。私の父は牧師でありましたから、立派な人が來るたびに良き感化を受けた事を感謝致して居ます。

英國に於ては小供達は御客様と別室に食事を戴く習慣になつて居ますが、此れは善き方法でなく勿論不贊成であると思ひます、又家庭では許すなれば小供の宴會を開いて小供の御友達を招待させまして、種々の御馳走やよき遊びを致させまして、自分の家庭は他の何所よりも愉快で樂しい所である事を知らしめ、又閑な時は親達は子供の友人となつて海や山に行つて共に遊ぶ事をおすゝめ致します。

日本では小供を母親にのみまかして自分は仕事をして金を儲け、友人と遊びに行きますが、男の子供にして十歳位になるなれば、父親は常に友人となつて感化し導かなければなりません。アメリカの或實業家で成功した人で非常に勉强する方がありました。もう少し努力しますなれば或會社の社長になる事が出來ました、其人が急に午後四時頃になりますと仕事を切り上げて歸つて行きます、其友人が不思議に思つて其譯を尋ねますと、其人は「私の宅には十二と十三の子供がある、それが近頃多少墮落の道に陷る傾向がある……私は社長として金持になる爲めに自分の子供を墮落せしむるに忍びない。自分は一切の物質い犠牲にして午後四時から子供と遊びます金よりも子供が大切であると思ひます」と申されましたと言ふ事であります。

□男女相敬し相愛せよ

第五、男子と女子とが互に其人格を尊重する理想的の態度を以て相接する事が必要であります。

男子が女子に對する又女子が男子に對する操の標準は同一にせなければなりません。日本に於ては今迄女子が墮落するなれば男は之を追ひ出しました、然るに男が墮落しましても女は之を離縁することは出來ませんでした。あなた方夫人は若し男子が墮落しますなれば、決して許さないが宜敷い、許す必要がありません。

これは眞實か僞か存じませんが大阪朝日新聞に、京都の西本願寺の法主代理某が、大和から京都に移つて來た時に、前の妻君が居つては出世が出來ないから、五才の子供をつけた儘棄て、京都に來て更に良い奥様を迎へたそうであります。如斯數十萬人の信徒を修め其模範となるべきお代理樣が、自分の地位を進むる爲には其麼不義をすることを敢て厭はないなれば、斷じて其罪を許すことは出來ない。

私共男女御互は神のつかはし給へる潔き者として互に尊敬の念を以て待遇さなければなりません。「心の清き者は福なり神を見ることを得べければ也」即ち人御互を見る時に如何程いやしい境遇の人でも、同じく神のつかはし給へる子なりと言ふことを思つて、相敬し相親しみ相愛せなければなりません。斯樣に考へまするなれば遊廓に足をむけることは出來ない、彼等娼妓は醜業こそして居れ、家畜ではない同じく神の生み給ひし子である。彼等は不幸にして種々なる惡魔の手に誘はれて如斯悲慘なる境遇に沈淪して居る者である事を思ふなれば、行いて其操をもてあそぶ不倫を敢てする事は出來ない。否寧ろ私共は同情の餘り一掬の涙なき能はざる事でありませう。皆樣は先づ高潔なる家庭を作らんが爲めに、惡き戰を戰はれん事を切望致します。

Digitized by Google　　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

裏長屋の精神修養

三輪田高等女學校長
廓清會評議員　三輪田元道

凡そ此人間には精神上の影響が外部に表はれる場合の多い事は、吾々の最も良く經驗する處であるが、又反對に外部の影響が精神上に及ぼす事の偉大である事も事實である。故に靈と肉の双方に注意を拂つて物事を處置し、改善し、發達さして行く事が肝要となるのである。處が世の宗教家、倫理學者又は哲學者杯は盛んに内部の影響、即ち靈の事許りを考へて、有ゆる階級の者を内部的に一括しやうとする努力は感謝するの價が充分あるけれども、餘りに外部を省みないやうな傾がありはせまいかといふ考を私は常に懷いて居る者であるから、家庭の清潔といふやうな立場に日頃細心の注意を拂つて居り、靈と肉との兩方面から人間の智識道德を開發しなくてはいけないといふ事を考へて居る。

□□□□

通常裏長屋に住むで居る人達の勝手元を覗くと洵に薩張して居る有樣を見るが之等はつまり板間を鏡の如うに拭ひ清めたり、又は鍋釜を銀色の如うに磨き上げたりして成るべく居心地の良い家にしたいからで、精神を無垢にせやうと思ふ其仄めきが瞭々と見る事が能る。而して鍋釜許りで無く家の道具は凡て之を潔め、幾分なり周圍の清淨を取り得たいといふ心掛けが、長火鉢を鼻の油で擦つたりするので、之等の事を世間の多くの人達はあんな事を爲したとて其品物の値段が騰る譯でもないのに、何と莫迦々々しい事ではないかと、一笑の裡に葬つて顧みないが、私は夫を只單に平凡な事として見逃すやうな事は爲したくはない、何故なれば彼等が自分の周圍を手の屆く丈、清淨に而して無垢に掃潔めて成るべく自分の居心地の良い場所にしやうといふ其努力は、其處に何等かの意義があるのではないかと考へられるからである。

□□□□

誰しも同じ事ではあるが、眼に映ずる其物の如何によつて我々の精神に及ぼす事が甚しい、假りに花を觀る時と、汚穢な物を見る時とは自ら我々の精神に愉快と不愉快の差がある如に、彼等裏長屋の人達が、常に家具の手入を怠らぬやうになつて行くのであらうと思ふ。加も彼等は精神修養といふやうな話を聞いた事がないにも係らず、間接に精神の修養を自分自身が行つてゐるといふやうな事は精神界の人達の思ひを寄せなければならぬ處である。彼等が無意識の裡に精神の修養を爲しつゝある夫等の事實は極て大切な看過する事の能ぬ問題である。それを等閑に見て居るやうな現社會は、或は外部影響が内部へ波及するといふ事を考へ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ない結果であるとも云ひ得るのである。僅許りの庭に池を作つて其處に金魚を活けたり、又は種々の草花杯を植へ込むで其變化を觀て喜ぶといふやうな事は、他目から觀ると可笑樣な事であるけれども夫れは洵に有意義の事で畢竟自ら天然と接觸せやうとする一の努力である。神と人とが接觸せやうとする眞心から出た内部の働きが自と外部に現はれて、池を作り金魚を活し草花を植えるといふ事になつたものである。我々は常に神を觀る事が能ないので垣根に咲く朝顔を觀て噫!!美しいなアと讃美の聲を發する。其精神は自然に憧憬する事なので、夫が頓て神に接觸するといふ事の一階段である

人が金魚を飼つて時々其水を替へて遣り、成るべく金魚の住み心地の良いやうにとする事は、大にして生物を愛するからで、之が結局人類を愛する事にもなるのである。而して這麽事は我々が無意識にやる事だけれど、博愛の精神が其裡に瞭々とある事が判る。

□□□□

斯樣に下級社會の人達が長火鉢を磨き上げて光澤を出して奇麗になす事や、又朝顔の垣根に咲く其可憐な姿と、露を含むだ其色の味を觀て樂むで居る處に、人間らしい如何にも高尚な處がある。然るに近來は其ういふ事を放擲にする傾向があるのは實に悲しむ可き事であらうと思ふ何故に前に申したやうな高尚な點を放擲するか、之等は種々な方面から研究せねばならぬが、要するに現今は巧利主義に變遷した事が其主なる原因であらうと思ふ、巧利主義とはつゝまり現質主義の事で物事が凡て目先々々の物質慾に依つて生きて行くといふのが今の世の中であるから、金魚を飼つて樂むだり、朝顔を植えて喜ぶやうな事は洵に愚にも付かぬやうに考へられて來たのであると思ふ。世の政治家、教育家等は宜敷其邊の處に着目して貰い度い外部を高潔にする事が自ら内部に其影響を受けて、初めて内外の高潔を保つ事が能るものと私は斯う信じて居る。私が小供の時に讀むだ屈原といふ支那の人が書いた文章の中に『新きに沐浴する者は必ず其衣を拂ふ』といふ事を見た事があつた。洵に面白い格言であると思ふ。誰しも風呂に浸つて身體を颯張と流して、出ると、今迄の着物を其儘着るやうな事をしないで、衣を叩いて、塵埃を落して着る。私杯も常にさうやる事である。風呂に這入る前は自分の身體が汚れて居るから汚れた着物も平氣で着て居られたが一度身體を淸めれば其處に高潔を望む内部の働が現はれて塵を拂ふといふ事になる。それと同じ事で淸い處を認めて夫を追ふて行くといふ事は確に内部に高潔な精神を養ふ事になる魁であらうと思ふ。

□□□□

元來日本人は常に達者に風呂に入る國民であるが、之は尤も獨り日本人許りで無く、凡ての人類に肉體上精神上の兩方面から良い事と思ふ。近頃西洋でも日本風の湯屋が出來た。傳染病の危險や又裸體を露骨に現はす點かにで幾多の改良す可き餘地が無いでもないが、兎に角身體を淸めるといふ點に至つては、日本の風呂場といふ者は洵に結構な物だと言はねばならない。江戸ッ子は朝湯に這入る事が一つの道樂のやうになつて、江戸名物の一つに算へられた位であるが、職人杯が朝湯に這入るといふのは一時丈でも其瞬間が神聖に最も爽快になる事が能る

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

からである。之等の事も外部の影響が內部に波及する處がある。更にまた江戸つ子は決して宵越しの錢を持たぬといふ如何にも薩張した氣性になるのも同じ樣な事で江戸つ子が宵越しの錢を持たぬといふ事に就ては他に幾多の原因もあるが、夫は機を見て掲げる事にして、精神上に影響した其純潔が斯くあらしめた者である。けれども之等の事を經濟上から觀るなれば寔に不經濟な事で在るが、而し、薩張とする其氣分が現金に換へられぬといふ結果が吝臭くない男達といふ事にもなる。が必ずしも私は之を奬勵する者ではない、何故かなれば到底幕府滅亡期は今日のやうな生活難杯といふ嫌な言葉が無かつた時代であるから夫も出來た譯であるが、現代は第一經濟上から容されぬ時代である故夫を奬勵する事は到底不可能である。故に江戸つ子の朝湯といふ事は一つの缺點であり。又長所である

□　□　□　□　□

今から二十年許り前の事、北國の或漁師が四國の琴平神社へ參詣したが神前に跪いて祈禱を爲して居ると、自然に森嚴の氣に打たれ、思はず知らずの間に拾圓紙幣を投げ了た。が其瞬間に自分の旅費が不足する事を氣が付いたので惡い事とは知り乍ら、又夫を取り返した。すると其有樣を外で觀て居た一警官が彼の不都合を科めたのである。一旦神に捧げた物を取返すさいふとは丁度他人に物を與れた物を取返す事と同じ譯で、投入れたが最後其所有權は移つた者であるからの意味で、遂に彼は如何とも爲す事が能さなかつたといふ。十圓紙幣を向ふ見ずに投げたといふところに、洵に面白い研究材料を發見することが能る。漁師は其雄大なる自然、殊に神社の如きは如何に我々の心が自然と隔け離れて居つた時であつても、一度其處に足を踏入れば周圍の凡ての物象が我々には森嚴なる自然の威力を感ぜしめずには置かない偉大なる靈氣が漂ふて居る故、彼漁師をして如斯失態を演ぜしむるに至つたものであると思ふ。外部の影響を餘りに深く味つた彼は遂に經濟上の壓迫を受けた事になつたのである。元來が漁師といふ商賈は常に洋々たる海原に舟を浮べ、大自然の懷に包擁まれて朝に夕に此自然に親しめる生活を爲す處から、自然に靈氣を深く頭の裡に刻付けられて居る、彼等の日常生活が極めて單純で薩張して居るのも其爲である

□　□　□　□　□

我々の家庭も此自然となるべく離れぬ樣に、家屋の大少に係らず手が屆く丈け淸潔を保ち、中庭があるならば假令一坪の庭にしろ、又は草花を植へた垣根にしろ水杯を懸ける事を奬勵するが卑近な處から出立して一般國民の修養になると思ふ。そして外部の淸淨が應て內部に影響して。茲に靈肉合致の完全なる修養が能る譯になるのである。

昔より花見に大きな喧嘩のあつた例がないてふ諺がある。醜態を時に依つて多數人の前に暴け出す樣な傾きも無いではないが、凡てが毒々しい事を認め得ない事は事實で、之はつゝまり櫻の花が毒々しい行爲を赦さぬのである。由來櫻の花は我國古來の誇として武士道に附き物で、之を稱して大和心を現はして居るといふて居られるが、實際櫻を見て誰しも毒々しい感情を催す者は無い。櫻を觀て血を流す樣な事ができないのは之も矢張外部の影響に依て內部に及ぼされる結果である事を立派に證明する者である。（つゞく）

男女の地位に就て

東京女子醫學專門學校長　吉岡彌生

□東西兩洋の女子教育

國の文明の程度は女子の教育程度で分る。女子の教育が進んで居る國は、其國の文明が進んで居るので、若も女子の教育が後れて居る所は、其國の文明が其だけ後れて居るのである。西洋と東洋の文明の差は西洋の女子と東洋の女子の教育の差に等しいのである。西洋の女子の教育に對する方針は、女子を以て社會の一員として、之に適する樣に教育するのであるが、東洋、殊に我日本の女子に對する觀念は全く之に反して、女子を機械視して居る、物質視して居る。男子の玩弄する物の樣に思ひ、男子の及ばざる所を助けさせる爲の物の樣に思つて、其に適當させるが爲に教育を施して居るのであると思ふ。全然さうであるとは言はれぬが、其傾向がまだ全然拔けぬと言つても決して過言ではないと思ふ。西洋では女子をして其本能を出來るだけ發揮せしめんとして居るが、日本では成るべく之を壓迫して、男子の要求に叶ふ者となさんとして居る樣に思はれる。私は御覽の如く女子で而も日本國民の一人である。尤も國體を重んじ、且つ愛國心に就ては、決して人後に落ちぬと自ら考へて居る者であるが、女子の教育に就ては現今の狀態に甘んずることは出來ぬ。聊さか之に就いて異論を挾む者である。日本に於ける男女の地位に就いて大に異論を唱へる者である。

□男女は織物の經緯の如し

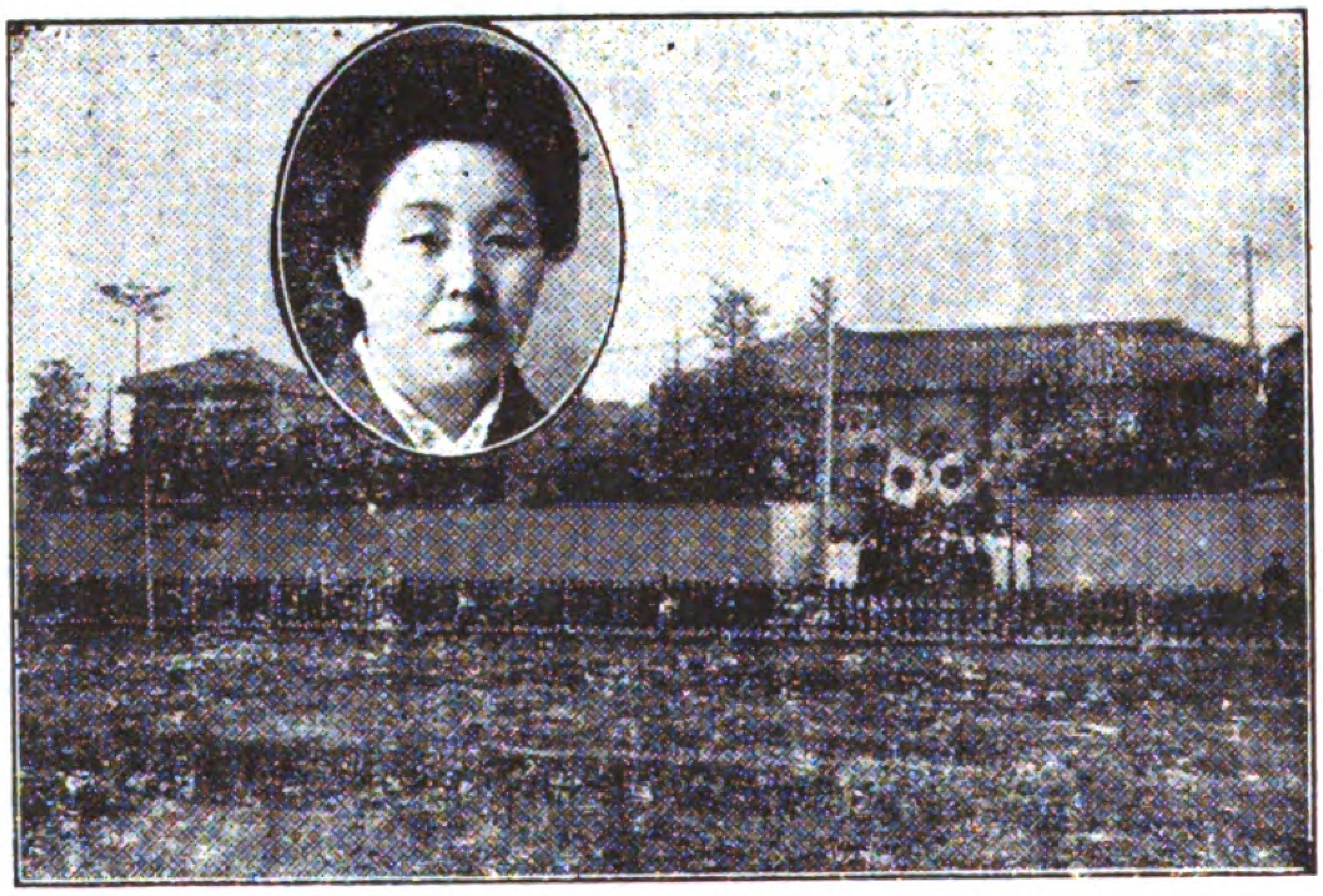
一國成立の要素は人民である。人民は男女の兩性から組織されてある。されば男女は恰かも一國なる布を織る所の經と緯の如き物である。布の強弱は決して經にばかり由るものでもなく、又緯ばかりによる者でもない。經が弱ければ經から破れ、緯が弱ければ緯から破れて、其布は用を爲さなくなる。こんな事は裁縫なぞをせぬ男子の方々にもよく分つて居る事であらう。故に國を強くせんとするには、其を組織して居る經と緯とを同樣に強くせねばならぬ。即ち男子と女子とが同樣に強くならなければ、國は強くはなれぬのである。然るに東洋の女子教育は女子をしてなるべく弱からしめる樣になつて居る。西洋では之に反して、女子の人格を養成し、其智能を啓發して、其本能を發揮せしめようとして居るのに、東洋では却つて其本能を失はしめんとして居るのである。西洋にてはなぜ斯くの如くに女子教育が發達して居るかと云ふに、生存競爭が劇しいから、女子は男子の脛をかぢりて生活する事が出來ず、勢ひ獨立せねばならぬから、夫々其技能を學び、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

能力を發揮して社會に活動するの要があるからである。日本などでは、生存の競爭が其程甚しくなかつたから、女子は何等人間として働く必要がない。單に其家の裝飾物であり、玩弄物であると思はれるのも決して無理はない。そして男子の方でかう思つて居るばかりではなく、女子自らもさう考へ、世間一般もさう許して居たのである。故に女子の敎育に付ても、其能力を發揮して大に社會に活動せしめようとする必要がないのである。然し國が進むに從つてかゝる敎育法にては間に合はなくなつて明治の初めより追々女子敎育に注意する樣になつて、女子の學校が大阪にも東京にも設立されたが、皆ミツシヨンスクールの模倣であつて、我國の女子敎育の方針は確立してないのである。故に今日まで確乎たる女子が少いのである。

□良妻賢母主義

然らばどんな方針に據つて女子敎育を施すべきやと云ふに、私は今後我國女子敎育の方針として、矢張り良妻賢母主義が宜しいと思ふ。良妻賢母主義は單り我國敎育の大方針とすべき者たるのみならず、洋の東西を問はず、時の古今を論ぜず、何時でも何處でも異存のない所であらうと思ふ。唯其良妻とは如何なる要件を備へたる者か、賢母たるには如何なる能力を要すべきか、其内容に至つては封建時代と、明治時代とは異り、明治時代と大正の今日とは又少く異らなければならぬ。同じ良妻賢母主義でも時世の進歩に連れて大に進歩せねばならぬ。近頃女學校なぞで生徒に課する家政學の問題の中に、百圓の月給を取る人の妻は如何に經濟をなすべきかと云ふ問題がある。良妻としての要件として至極尤もな問題ではあるが、よく考へて見ると、夫の金を貰つて之を唯使つてゆくに付ての計算だけで、此中には如何にも女子のいくぢなき樣が表はれて居る。私はこんな問題よりも寧ろ、一旦主人が家政を荷ふ事が出來なくなつた時には、妻たる者は如何にすべきかと云ふ樣な問題を出して貰ひたい。當今は消費力ある女をば造るが、生産力(財産の)ある女を造る事は聞かない。日露戰役を過ぎて、世界の一等國となつた日本にては、封建時代の良妻賢母主義が今に適當するか否や。生存競爭が劇しくなつた世に於て、單に夫の生産に依賴して居る樣な女子のみを造つては國は弱くなる。故に今日に於ての良妻は、平生に於ては夫の執る職業の點を充分に理解し、常に其の相談相手となつて家庭を修めて行く力がなくてはならぬ。そして夫が生産力を失つた時は之に應じて、一家を支へて子女を敎育し行くだけの覺悟を持たね



東京至誠病院と院長吉岡女史

ばならぬ。又賢母としては、己の子女の中學校、又は高等女學校を卒業した者に對しても、權威を有し、其等に馬鹿にされない位の技倆と人格とを備へねばならぬ。女子の教育は此の良妻賢母たる資格を養成するを以て其目的とせねばならぬ

□女子の生產力を增せ

世間には女學校を卒業してから結婚する迄の間の問題を講究する女子は多いが、結婚後の事を考へる人は少く、專門學校を卒業した人でも、一旦他に嫁せば矢張夫の脛嚙りとなつて、夫のみを賴りにして居る者が多い。是は單に女子ばかりの罪ではない。社會が女子をして斯くなさしむるの罪もある、即ち妻をして金を取らしめ、夫は遊んで暮して居ると云ふ時には其夫たる者は如何にも意氣地なしと言はれるが故に、男子の方で女子をして働かしめず、自ら働いて之を養つていくと云ふ所に女子が生產力を用ひずして男子にのみ依賴する事となつたと云ふ事もあらう。そして女子は又男子が養つて呉れる事をよい事にして、自ら本能を發揮し男子を扶けようとはせずして、益々腑甲斐ない者になつて終つたのである。古代に於ては男子には今日よりも忠君愛國の念が强かつたが、生存競爭の劇しくなつた今日では其が少しく衰へて來た、人が國家の事を思ふよりも、先己の家庭の事を思ひ、家族の生活の事を思ふ樣になつた。是も今日の女子が能力に缺けて居るからである。若も女子に能力があるならば、男子は後顧の患がなくなるから、男子は專ら國家的觀念を以て働く事が出來るのである。今日月給を百圓取つて居るが、一朝免官になつたら妻子を路頭に迷はせねばならぬと云ふ時は、誰でも上官の機嫌を取つて、理が非でも免職にならない樣に努むる忌憚なく申しますれば、收賄問題だとか、此外色々の社會問題が起るが、其の多くは女子に能力がないのに原因して居る

□女子に獨立心を持たしめよ

今後の社會を健全にするには女子に生產力を有せしむるにありと信ずる。是が實に日本現今の最大急務の一であると思ふ。徵兵も己に濟み、家に歸つてから、妻を貰つたらどうかと問はれる時『私は妻程厭な者はない。何か此方の氣に滿たぬ事があつて、顏つきを變ずれば直に泣く、夜少し晚く歸れば、グズ〳〵言ふ。そして帶を買つて呉れよの、子供の着物をどうするのと言つて、ねだる事ばかり考へる、妻程厭な者はない』と言ふ人がある。是れは妻の撰擇が惡いからであるが、人の妻たる者は、かゝる消極的の感念で、夫の機嫌を損せぬ樣にするのは甚だ間違つて居る。自分は玩弄物ではない、機械ではない、人間である、大なる能力を備へた人間であるとの考を以つて夫を助け、夫が一朝何かの爲に蹉跌する樣な事があつたなら、夫に代つて家庭を維持してゆくだけの技倆を持つて居たならば、夫は之に信賴して、大なる事業をもなす事が出來ると思ふ。故に教育をするにも、男子が妻を娶るにも男子が布の經であるならば、女子は緯であつて雙方ともに大なる任務を有して居るのであることを考へねばならぬ。女子其自身亦己の任務の重大なることを考へ、己の本能を發揮して良妻となり賢母となることを努める樣にしたい。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

廓清春秋

河合北洲

山と人生

天上の地なるか、地上の天なるか、山は天地を結ぶ聖壇也、聖壇高き所、世界の創世記は刻まれ、雷電撃退の歴史は輝きて、時代に超越すること風雨茲に幾萬年、宇宙最大の權威は則ち又人類最新の權威たるもの、人には聖書、地には聖壇あり、こゝに神の至聲は響きて、凛として人心の最奥に徹底せば、徹底の殿下に湧ける宗教は、以て死せる人類を蘇生せしむるに足る。

聖壇高きが故に、愈々幽玄崇美に、形勢雄大なるが故に、愈々壯嚴と威力を加ふ、巨人屹として動かず、國家重きこと幾何ぞや。

爾の挾める玉笏、爾の親衛たる槍旗に、森林の名は冠せられ、無限より無限に傳ふ、爾の低き雅樂は、幽谷に其餘韻を絶たず、深沈淵として品位の高貴測る可らざるものあり。

神秘の幕、一點の靈光に打たれて、金線の迸しる所、朝には朝の光あり、夕に夕の榮えあり、光輝縱横、色彩萬千、夕裝は美の變化四季に流れて、人生の渇仰を促すこと幾何ぞや。

風嘯けば滿山鏜々、疾雷胸に轟きて、霹靂慟哭の響あり、水は涙に嗚咽して、虫に語り、鳥と啼けば、小絃切々たり、既に無絃の大琴を抱く、觸るゝ何物にか觸れざらむ、山は決して無情の頑骨に非ざる也。

眞善美の詩神は、又感興の春に燃えて一花笑へば萬岳の詩を草し、一葉動きて雲霧の文を綴る、路傍の頑石も亦秘藏の寶庫を語れば、戴く六花の白帽は不盡の高潔を晒すに堪えざらんとす。詩人何處にかある。文學者何處にかある。此世の科學者何處にかある。何ぞ、神秘の無盡藏を開來つて、玄々の妙を人生の空腹に滿たさゞる。

大熱々々の黑雲は去て、憧憬美の彩雲は來り、一世紀晩鐘に暮れて、他世紀又曙の光底に生る。流轉波は爾を犯さず、生死の權は爾を制せず、千秋夢の如く、萬古影の如し、悠久の生命、不死の靈、爾も亦斯く神に近きか。幽玄崇美何ぞ、壯嚴雄大何ぞ、悠久不死何ぞ。惟これ地上の聖壇を築くが爲に非ずや。人生を代表して不朽の默禱を捧ぐるが爲に非ずや。人生動中の大靜は山と默禱に任り。神と面々相接すべき大自然は、大々自然の前に跪きて、言ひ難きの嘆きを訴へ、仰ぎて向上の到り易からんことを冀ふ。

山は人生の力也、意志也、感情也、天地此聖壇あり、悲劇の劇中にも以て樂觀するに足る、人生此神境あり。死中の死にも、尙ほ生を求むるに足る。

水と人生

自然は自己以外の自己也、流轉の水に流轉の人生を讀む、流轉の文も人生の小學讀本に過ぎざる也。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

行雲行雨の水、幽谷の胎内に生の微動を打つて、靜中動の第一頁を披けば、落葉の柵を破り、樹根の壘を陷れ、盤石の險を犯して、銀鞍白馬の少年兵を送るもの、更に青春、次ぐに壯者の萬馬を迎へて、懸崖の飛躍を試み、砂石を蹴り、岸壁を碎き、花の彈丸、雪の硝煙、激するもの、衝くもの、奔るもの、破壞王の馬蹄に蹂躙せられざるはなし。破壞の騎兵は又建設の工兵也。一望開濶の原野に出づるに及び、美田沃野を灌漑し、細流微水を招降して軍容頗る堂々。一朝功成り老來るや、外交の手腕も亦圓熟して、東西に曲折し、南北に蜿蜒し、漾々蕩々、我なく、必なく、流れて永久の墓に入る流轉とは死の海に運ぶ運命の葬儀車也。車輪の跡は沒すべくして、一旦の印象も長へに沒す可らざる也。

青春のエネルギー。觸る丶所に破壞あり、感激あり、超越幾百尺のインスピレーション、活動回轉の水車に波を揚げなば、水電は幾多の工業を創造し、青春は自他の人格を建設す。社會の廓清は彼等の燈火に照り、國家の改革は彼等の軌道に進行し、脫線す。風雲の階上に立て動力の專賣權を握るは彼等也。

壯者の發展、大發展は犧牲の反面問題也。一望幾百幾千町の水田に灌漑の水を注ぎ盡すは、新穀穰々の黃金野を生む所以にして、挺身、奮闘、努力、嫉妬、猜忌、中傷の渦中に全身を投じて、全心を投じ了はらざるに、水力增大の道は開かる。かくて自己、共同の社會、祖先の國家に盡すべき三重圈點を荷ふ、圈點とは自己を空ふするの懸命に在り、懸命の一端に成功の分銅は懸る。

老年の義理、既に受けたるものは之を返へす可きの義理を有す、生存を得、齡を得、德を得たるものは功德を神と社會に返禮せざる可らず。運ばれし下流は、物貨を運びて、交通貿易するの然るが如く、社會各面の闕陷、闕乏、闕漏の船を漕ぎて、平和、滿足、調達の彼岸に達せざる可らざる也。敎育、慈善、矯風、廓清社會事業に最後の賦役を拂ふは、喜字米字の理想的實際的祝賀法なりと云ふべし

過不過は運命の權衡觀也。流轉の活水たらずして僅かに池沼の死水たるも、以て天上の月を宿すに足り、灌漑交通の役を得ざるも、以て無限よりの天樂を都市

感謝の生活

大江壽美子

■人生に感謝の有無 が其人の幸となり不幸となるを痛切に感ずる。我々が日常住居する家屋杯でも、大きな家に住ふと何うも家が廣くて困る、第一掃除するにも實に其場處が大きいので閉口だと云ふ。而して今度は狹い家に住むと、何うも狹苦しく、加之暑くて困ると言ひ出す。之等は其人が感謝のない結果で夫が爲面白くない處から、其の揚句平和が破壞される事になつて遂に或る病氣に犯される、彼のヒステリー杯は此類で、畢竟感謝のない爲めに勢ひ其處に至るのである。凡て物は考へやうに依つて何うでもなるものである。

■或山の手に下宿業 を營む只一人のお婆さんがあつた。毎日クシヤクシヤして樂む事なく、私は實に不幸者だから何うせば良いかと、頻に考へる結果種々な些事に、直ぐ癇癪玉を破裂させて、一日でも安心のある日は無かつた。處が下宿人の中一人の婦人が居た、其婦人は寔に親切であつたので、或日其婆さんに向つて言ふのには、お婆さんさう癇癪玉を沸かして居ては、第一身體に惡るいから、敎會へでも行つて神樣のお話でも聞いて心を和げたら如何ですと、話したするとマア頓でもない。此樣な忙しい身體で神樣なんか信心するやうな、其樣な呑氣な事は迚も能ぬと動かなかつた。或日お婆さんの生れた誕生日が巡ぐつて來た。けれ共其樣なお婆さんであるから誰もお祝ひを述べに來る者がない、只一人の姪が一つの箱を持つ

に齎すに足るべし。只夫、臙脂の姿、鐵漿の心、紛々鼻を撲つの下水たり、人類たるものあらば、更に又、頽廢の氣は社會を毒し、死屍横行の潮流たり、汜濫たるものあらば、嘔吐嫌惡の外、如何にかすべき。

流轉は體也。活動は用也。此體を以て此用を達すべく、今尚四千年前よりの日課を勵行し得ずんば、再びノアの洪水を求めて、溺死を來さずんば幸也。

野と人生

人は草の如く、其榮は野の花の如し。惟花を踐むの四肢あるが爲、野心獸行の動物たらざる稀也。耿々たる一片の神心ありて之を馭す、馭すべきは人なる乎。馭せざるも人なる乎。

地に屬る野あり、天に屬る野あり、地に屬るものは食物の供給地也。富の財源地也。人類の集團地にして其競爭塲也。此地に生死追逐す、意馬心猿を驅りて虎獅豺狼たるか、生活に囚はれ、自己に囚はるゝの馬車馬たるか、利欲の巷、功名の聲、煩悶の嘆、紛々たり、擾々たり、此聲に乘じて、天馬空を行くの曲馬師たらんとするもの、豈に獨り奈翁、歷山、秀吉の徒のみならんや。地は幾多未成品の英雄を戴くに堪へずして、不安の空を擊つもの、之を衣の如く脫んことを念はず彼を衣の如く着んことを願ふ、彼とは何ぞや、天に屬るの野也。

天に屬る野は試練の階段也。饑寒困窮は晝の如く來り、親屬朋友は夜の如く去り、同行僅かに二人。然も人情反覆の暗野に光明を認め、刀鋸鼎鑊に愛の梯を攀づれば「伏すべき綠の野、憩ふべき水濱は、」彼に在らずして却てこゝに在らんとす。

仰げば、默禱の山は密室に聳へ、俯すれば歲月の流心身に迫る。人生活動のエネルギーに促さるゝもの、天屬地屬の未開地に立ちて、將た何の感かある。

> 人生は肉慾解脫への絕え間ない努力から成立つてゐる。此努力にこそ人生の祝福がある。努力する事は何時でも出來る。而して又肉に對する精神の勝利も常に得られるものである此れを信じない者のみが、其勝利を取り逃すのである。けれども信ずる爲めには人生の意義が努力にある事を知らなければならない。又それを經驗すべきである。(トルストイ)

て來た許であつたが「之に若し、

■有り難いと思ふた 時に一錢宛此箱の中に入れて見たら」と云つて 夫を渡された。其處で、其後お婆さんは漸々考へて見た、妾には彼優しい孫が居つて斯樣物を持つて來て吳れる、有難い事だと感謝した。夫で一錢を箱の中に入れた。夫から或時は昔の事を考へ起した。彼時は兎に角亭主が居て、其中に子供があつて一家何の心配もなく暮して居たが、間もなく子供が肺病で死ぬ、亭主が亦候彼の世の人となる、而して其揚句家を疊まなければならぬ様に陷つて、其當時妾は女の纖弱な身でありながら隨分と苦しい思ひをしたものだ、處が今ではマア斯樣に居られるやうになつて、先づ衣食住には心配がない、あゝ有難い事だと感謝した又世間には同じ未亡人でも、家も親類もない人がある、夫に妾は先づ之丈の財產があるのは何と有難い事であらうと感謝した。亦下宿人が今晩の御飯はお旨かつたと言へば、こんな昔者が拵へた物が、其樣なに今の若い者に口に合つて旨いとは、あゝ有難い事だと又復感謝する。斯くして此お婆さんは益々感謝の念が日一日と強く高くなつて行つた。其結果は

■今迄呟ゐて居た事 がなくなり部屋も何處も清潔になつて、實に氣持ちの好い日を送つた。すると翌年になつて件の箱が充溢になつた。早速夫を教會に持つて行き、右の事を物語つて其金を寄附し、幵して感謝の生涯を送つたと云ふ話である。如斯人が此世に處する上に感謝の生涯程、大切なものはないと思ふ。人は有難いてふ心が起れば自然に善い事をせねばならぬ人になるものである。之に反し始終呟いて居るならば反對に、惡い考へを起すものである。(完)

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

警視廳の新方針に就て

警視廳保安部長　丸山鶴吉氏

左は丸山保安部長が、佛教徒社會事業研究會席上に於て發表せられたる意見である。氏の今回の新方針に對する說明乃至意見は、隨分澤山に表はれてゐるが、上宮教會に於ける此講演程詳細を極め且つ熱心なる說明を見聞した事がない。氏の此意見は存娼論の一派を代表する重要なるものと認め余は出來るだけ忠實に筆記し紙面の許す限り掲載する事とし、最も眞摯の態度を以て次號に其說を研究し、相共に社會廓淸の爲めに努力したいと思ふ。
氏の所說には幾多の矛盾と事實の錯誤やドグマがあるが、警察官が進んで其施政に對する意見を公會の席に發表せらるゝ立憲的な態度、勇氣と抱負とに對しては滿腔の敬意と感謝とを拂ひたいと思ふ。（汀南）

□

凡そ賣淫問題といふものは、餘り奇麗な問題でないから、斯樣な事を話すのは好ましい事でない。乍併社會の重要なる問題であつて、問題自體が奇麗でないからとて、此事を眞面目に研究する事なきは憂ふ可き事である。此問題の如きは卑近な鄙俗な問題であるが、餘程眞面目に考へて、何等かの斷案に到着して處理するの必要がある。

此問題は歐米でも熱心に考へて色々の意見が發表せられて居る。而して第一は一般の風紀を紊るものとして論ぜられ、第二は都市の風致、市街の整理といふ風から論ぜられてゐる。第三は花柳病の蔓延に對する豫防である。現今に於て歐米各國で主として力を入れて居るのは國民の健康、精力に就て、第三の花柳病の方面から考へられてゐる。晩近此花柳病の勢ひといふものは大變なもので、どの位あるか分らない。獨逸あたりの學者が熱心に調査したものによると、伯林では十八歲から二十八歲迄の罹病率は梅毒が四五%、淋疾が一二〇%で、ブラッセルでは梅毒が七七%、淋疾が二〇〇%あるといふ事である。實に驚く可き數字で、中に百分の百二十といふのは甚だ可笑しい樣であるが、二度も三度も淋病に罹るから二〇〇%、或は一二〇%にも達するといふ事である。或人が現代はシビリーゼーション、イズ、ジフイリーションで、文明が淫賣化して行くといふたが、誣言でない。爲めに國民の健康元氣を害し、子孫に及ぼす影響は實に重大で、殊に興國の國民として注意を要するは勿論であるから、漸次風紀問題としてよりは衞生問題に移る傾向がある。

□

さて今度警視廳が手をつけるに至つたのは、少し此問題に注意を拂はれる方は御存じの如く、近年東京市中に密賣淫の跋扈は著しく増加の現象を呈し、たとへば淺草の千束町を中

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

心としたる場所、日本橋の郡代、芝の神明の如きは猛烈を極め、千束町には二千五百の集團があり、千軒ばかりの曖昧屋があつた。それに對する方針なり取締なりが徹底しない結果は、漸次に市內に集團をなす傾向がある。小石川の如きも指ケ谷に三十三軒もあり、これ等大同小異の場所が市外を合せ十二三ケ所もあり、而も其營業振りが誠に露骨で、文化の發達に從つて凡てが露骨になるやうであるが、此方面も白晝公然醜業を營んで恥ぢず、遊廓以上に醜態を暴露してゐる。事茲に至つたのは當局の責任で、一面に種々の非難があつても洲崎其他六ケ所に公娼がある。之れには色々な嚴重な取締の方針を立つて、効力が微弱でも檢梅の方法があり、强制治療をなし、又稅ではないが賦金と稱して禁止稅に近い高率を課してゐるのに、一方には斯ういふものがあつて兩立してゐる事は、それ自體矛盾の事で、行政の上から見た眼でどうかしなければならぬ事は了解を得る事と思ふ。

如斯ものが橫暴を極め、簡單、秘密、輕便に遊び得る爲めに、遊ばなくて濟む者が抑へられずに行く者が多い、近來學生の花柳病が多くなつたのも、主として學生生活の者がまさか遊廓に行く丈の勇氣はないが、私娼あるが爲め、輕便、簡單なるが爲めに禍を受けるのであつて、それが非常な數に上ると思ふ。且つ點々不規則に存在するはそれ丈青年の誘惑になる。これをどうするかといふ事は當然來る問題である。そこで、諸外國の例を研究し、日本の現下の狀態、又政治行政上の關係を考慮し、凡ての方面から研究して適正の策を立てなければならない。

□

理想を云へば自ら別である。將來永遠に希望してる處に一足飛には達し得られない。殊に行政として表はれるのは、如何に立派なものであつても急轉直下は善政と稱せられぬ。色色の事を考へ合はして今日の狀態にしたのである。

私娼の要求は人生の要求で止むを得ない。時代の要求で止むを得ないとしてそれを放任するか、殊に問題は衛生上はどうかといふ事になると、衛生の設備を命じ取締を命ずるは當然で、公娼廢止は別問題として、公娼はあるものとして考へれば、此儘公娼として淺草其他を許し、衛生上の取締をするか、又は警察で認めたやうな、或は知つても知らぬやうな或風に認めるか、然らずんば飽迄撲滅の方針をとるかに歸する。更に或は根本的に公娼私娼の問題に這入つて政策を確立するかである。此問題は理想や理屈では何とも仕樣がない、理想から云へば卑吝なるものは絶滅するがよいけれ共、所謂『必要なる害惡』ならばそれに適當な策を立する必要がある。根本政策は將來に殘されたる大問題で、敎育家も宗敎家も、何人も共同一致利害情實關係を離れて、國家永遠の策を立つる義務があるが、今日は永遠の策、萬全の策と認むべきものがないから、そこで現代の制度の內で如何にせば、現今を救ひ、將來に禍を殘さないであらうかを考へた譯なのである。

殊に花柳病の關係に就てお話すれば、娼妓は精密な健康診斷があつて、東京は三%乃至四%の有毒割合になつて居る。而して其患者は入院せしめられ治療しなければ出さない。百人

中三乃至四人位の患者であるならば危險はないかといふとさういふ物ではない。檢査は一週に一度であり、且つ隨分多數の者を僞な醫師によつて行ふのであるから、獨逸學者に云はせれば顯微鏡檢査を要するとか色々な事を云はれるが、併し大數に於て公娼は三%乃至四%で、警察で檢擧したる密娼の檢梅結果を云へば、二八・七%位の有毒者になつてゐるのであつて、其中には勿論種々の種類の人、酌婦、藝妓、辻淫賣などが含まれてゐる。殊に千束町に於ては、先年如何にも病毒の傳播が多いから、衛生の問題を顧慮する餘り任意的に此方の醫者で見てやらうと自分の爲めにも社會の爲めにもならぬといふので檢梅を初め、其内容が始めて暴露されて檢黴醫を戰慄せしめた。此處の三千の私娼は、娼妓を檢査する同一の醫者が同一の方法でやつた處によると、八四・七%の有毒者であつた。無論今日の檢黴が確實でないのは學者のいふ處なれども、同一人が同一の方法で檢査して一方は三乃至四%であり、一方は多年の檢黴醫が殆んど面を掩ふ程の慘狀であつたといふ事は見逃す譯には行かない。而して二年間檢黴を經驗した結果殖へたり減つたりしたが、今日は五十四五%の間を上下してゐる。之とても現在の有様では表面に認めてゐないものは治療を命ずる事は出來ないから、勸誘的に過ぎず、從つて治療中も客を取る事になる。これは實に衛生上由々敷大事で、五十四五%なら友達と二人と遊べば一人は必ず病氣に罹る勘定で、果して檢梅が絶對的の効力がないといふ事は云ひ得るとしても、其處に投げられたる事實を見て、三と五十四との差と、而も一方は有毒期間入院を強制せられ、一方は其儘客に接するのであるから、病氣に罹るプロパーピリチーに於ては、如何なる議論をも容る可きでない。故に衛生上放任が出來ないといふ事になるのである。

□

公娼それ自身が殘されたる問題であるが、現在の私娼は公娼以上の醜態を暴露してゐて、風紀上からも衛生上からも、これ等が遊廓地内で取締を受ける事が利益である事は窮迫せる問題である。故に先づ私娼は絶對に取締る方針で、之によつて必要以上の私娼は確に減じ得る。必要の範圍のものは公娼地内に入れて出來る丈取締るより外はないと確信したのである。從來賣淫に對する政策が確立してゐない爲め、遊廓は可成近よらないやう、なるべく入り惡いやうにする事に、不必要な取締がしてある。それを減ずる事が經濟上遊び易い、又それによつて私娼が遊廓地に這入り易くなるであらうといふので寛和し、私娼は出來るだけ撲滅を振り翳して行き、そして一應の整理をする必要があると考へたのである。色々新聞や雜誌に誇張して出るから、遊廓を擴張する樣に解する者もあるが、さうではない。大體を云へば第一建築規則の撤去である。從來は石造煉瓦造又は塗屋といふ事になつて居つたのを、木造を許し、三階以下三十坪未滿の建築を許す事にした。これは從來の矢釜しい規則が却つて惡用され宏壯な華麗な遊覽地名所となつてゐるのは不都合な事と、公娼廢止論者に論せられてゐるのは、一面の理由があると認めて、之を撤去したので、從來大資本を要する爲めに開業が出來なかつ

た者が、小資本で開業する事が出來、澤山の資本を要せない結果、暴利を貪る必要がなくなり、安く遊興する事が出來る。

第二に大なる問題は張店の禁止である。これは營業者にとつては容易ならぬ問題で、江戸趣味論者の有力なる反對があつて却々斷行が出來ぬ。併し他方には人道上から極論され廓清會などに於て盛んに主張されてゐる。又張店の爲め冷かしが這入る。娼妓自身からも動物の如く、あの有樣は寔に惻隱の情に堪へぬ。で人道上から必要と考へて斷乎として禁止する事にした。

第三に張店の場所の處分で、一面又始終問題になるは飲食の高價なる事である。簡單なる食物は自分の家で供給する事を認め、飲食店の兼業を許し、比較的廉價に供給する事にした。

私娼の跋扈は要するに世界の大勢である。原因は種々あるが人間の慾望が向上する、從つて新奇な、眼先の變つた者を求める。又遊廓が徒らに費用をかけて、沒趣味なるが故に趣味を味ふ處を必要とする。遊廓を認めてゐる以上は簡單に廉價に供給する事によつて、私娼に向ふ足が公娼に向ひ得るやうにせなければならぬ。飲食店の兼業を許さなかつた事のみが全部では無論ないが、いくらかそれが原因をなしてゐる事も事實であるから、價を一定して安くするやうに計らつた。併し乍ら何品をいくらで賣るといふ事迄は干渉をせず、代價を掲示せねばならぬ事にした。

衞生上の設備に於ては、更に一層嚴重なる設備をなさしめ女の洗滌器の外に男子のも作らせる事にした。娼妓保護の方からいふと、隨分これ迄貸借關係が曖昧になつてゐたので、時々之れを調査し關係を明にしてやる事にした。

娼妓の外出に就ては六ケ敷い規定になつてゐるが、積極的に理由がないとしても消極的に差支ない範圍に自由にする事にした。六ケ年も社會から隔絶して居つては廢業後役に立たないから、社會に接觸せしむる事と、世間話も知らないで客の話相手になれぬから、自然私娼を要求するやうな事にもなるからである。次に非常門六個を全部開放する事にした。態々交通を不便にする理由がないと思つたからで、併し小學生などが近いからといふので通學の途中を通るやうでは困るから、夜間だけ開放する事にした。

其他年期を短縮するやう、借金を少くするやう盡力し、廢業を早からしむるやう盡力したいと思つてゐる。

で要するに衰微したる遊廓を保護するに非ず、風紀衞生の上から、一方には嚴にし差支ないものは撤廢した。一面には私娼を通じて必要止むを得ざるものが公娼に移り得る機會を與へる事にしたのである。

□

私娼の方はといふと、撲滅方針を發表して忽ち一時に處分するといふ譯にも行かない。色々の手段を盡して先づ說諭して速に正業に就くやう勸告する。なるべく如斯營業の罪惡なる事を敎ゆる。一面親が知らずに私娼に沈淪してゐる者も可なりあるから、身元を取調べてなるべく親許へ返し、確質なる人があつて引取る事が出來るものは引取る樣手段を盡す。

勿論それで悉く成功する事ではない。どれ程の人が眞面目になるか知らぬが、一人でも此動機から此刺激によつて出來るだけ正狀に復さしめたいと願つてゐる。

中には隨分憐な事があつて其結果の空しからぬのを喜んでゐる。立派な地位の娘で私娼の群に這入つて行衛不明になつてゐたのが分り、嬉し泣きに泣いて親が伴れ歸つたり、相當の地位の娘で、奉公の積りで居つたのが分つて引取つたりした。それ等によつて反省の事實を與へた事は歷々として見る事が出來、凡ての者に覺醒の動機を與へた。其の手段を盡しても改むる事の出來ない者は、營業の立行かぬ樣にする事によつて、觀念を定めさしてどん／＼檢擧を勵行する事にしたいと思つてゐる。千束町、郡代、神明のやうな半公認の歷史ある處は、翌日から滅茶々々に叩き壞す事は、行政として急轉直下で、弊政といふ事は出來ないから、此三ヶ所は新規開業、讓渡を許さず新規に女の雇入を許さぬといふ事にして數の殖へる事を防ぎ、廢業者の出づる毎に減じて、徐々に急激でなく自滅の方針を取る事にした。で若しどうしても醜業が止められぬ者は遊廓に入るやうに逃路が設けてある。現在の吉原も洲崎も貸座敷を收容する餘地がある。吉原は僅●●●●●●●●●●●●であるが洲崎は現在の倍數以上收容が出來る。約二千人の娼妓は這入られるだけ●●●●●の餘地がある。

□

世の中の事といふものは贊成があり反對があつて、漸次具體的に進歩するので、此問題も亦社會の批評を免れる事は出來ないが、斯くして將來何等かの斷案に達するであらうと思ふ。其反對論の中にも附近の正業者が食へなくなるからといふ議論がある、食へなくなるからといふて泥棒の檢擧に反對するのが可笑しいと同樣變な議論である。また撲滅といふ樣な亂暴をせずに必要止むを得ざるものは公認が必要といふものがある。これも公娼を撤廢せろといふ上からの根本の議論なら尤もだが、公娼は其儘にして其上公認しろ公認しろといふのは之亦可笑しいと思ふ。彼等の逃路はついてゐるから、彼等の營業を奪つていけないといふ理由を發見するに苦しむのである。私はまた撲滅はやり得るものと信じてゐる。容易ならぬ努力と熱心とによつて遂せられると考へてゐる。私は斯ういふ『必要止むを得ざる程度』の判斷に苦しむのである。或は人口に比例して論ぜられてゐる。勿論それも必要だが性慾の要求は他の比例と異り、或程度は抑制し得可きもの、放てば非常な勢ひを增す。故にこれ丈のものは差上ねばならぬといふ事が、行政者として道義心を指導する適當なことであるかどうか。大に考慮を要する事である。尙遊廓に二三千の娼妓を增す事が出來るとすれば、必要缺く可からざる程度は尙收容し得る譯である。私は此信念を以て斷乎何處迄もやつて行く覺悟であるが、將來永遠の問題としては自ら別個の事情と別個の狀態が存する。反對論中公娼廢止論者の議論は尤も高尚にして有力である。現在國家が之を認むるのは倫理道德を危くするものといふ理由、公娼が非倫理的、非道義的であるといふあらゆる方面の議論は推服、傾聽に値する。乍併實際の問題として此議論の中には西洋に於ても廢娼主義と私娼主義の二つがある。卽ち單に名儀がいけない、國家公認のそれ自體が非倫理といふ議論と、絕對的に賣淫婦と認めぬ議論と二つある。日本邊りでも廓淸會を中心としてゐる人の中にも絕滅を叫ぶ人と、公娼自體が甚だいかぬといふ人と二つの部類が含まれてゐる。我國が事實上公娼を廢して卑客の男女關係がなくなるな

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ら結構だが、私娼があるのである。事實が存在する以上私娼に對する何物かを立てなければ、どうしても事實の問題が解決されない。理屈はどうでも私娼をどういふ風に取締れといふ風に案がないなら、理想論になる。公娼廢止は內務省娼妓取締規則を撤りさへすればよい。簡單である。併し倫理宗敎家が其立場から廢すべきを叫ぶのは社會に必要で、輿論を起し、道義心を指導すべき事は尊むべき事である。けれども其方法を示さねば容易に行はれぬ。私は決して公娼廢止に絕對に反對する者ではない。賣淫政策が定まれば公娼廢止はいと易い事である。願くば廢娼論者が徒らに感情的議論を試みず、第二段の理想に對する確實なる意見の發表を望むのである。

□

歐羅巴諸國の種々な研究に於ても、此制度を取つたが故に衞生上立派に有効であつたといふ事は、何處に於ても明にされて居らぬ。外國には遊廓になつてゐるのは少いが、伯林にも巴里にも公娼はある。これは主に登錄されたる娼婦で、鑑札の交付を受けてゐる。ハンブルヒはボルデルストラーセが百七十一軒、八ケ町に散在して集めてある。其他のさういふ處に寄寓しない者も警察の鑑札を有つて居り、國家が表面に認めてゐないが、事實に於て鑑札をやる以上は公娼たるは勿論である。其外にレヂスメスされない淫賣が紙論又澤山ある。道を步いても公娼、芝居に這入つても公娼で、歐羅巴で公娼を廢した處が奇麗になつてゐるかと云へば、何れの都市を取つて見てもさういふ處はない。日本の町位道德的に淸淨な所はないと外國人がよくいふが、實際日本には幸に到る處人を引張るといふ樣なことはない。巴里に十萬、伯林に七萬、倫敦に五萬の賣笑婦が居るといふ事である。我國に於てはこれをどういふ風に取締るか、何も知らん風にするとしても其權利が極端に尊重される。斯樣に放任主義があり、登錄娼があり、集娼があり散娼があるが、淫賣政策に對して最も可なりとする斷案は一もない。唯個

る々さいふてゐる。宗敎道德の眼から反對したい事であるかも知れないが、風紀衞生の問題を遊廓制度の上からどうにかしやうさいふ私共の此努力は、或は最も勝れたる卓見であるかも知れぬ。それは研究し終られば分らぬ將來に殘された問題で、我々は徒らに西洋の思想に幻惑されてはならぬ。

よく引合に出る丁抹は千九百六年に廢娼をやつた。警察は人の秘事には觸れないがよい。併し花柳病の傳播は怖いから丁抹規則なるといふので、コッペンハーゲンに於て有名なる丁抹規則なるものが發表され、大に歡迎をされたが、近來或る醫師が向ふの警察について實際を調べた處を聞くと、實は廢止の結果非常に困つてゐるといふ事で、一面に黴毒には無料治療所を設け、梅毒の傳播をなした者は法律で重く罰する、それでも傳染の勢ひを沒する事は出來ないで困つてゐると、直接向ふの衞生課長が話し、色々の統計を示したといふ事である。

又十年ばかり前遊廓地を作る必要を認めて、羅馬の如きは賣笑婦を集めて郊外に移轉せしめんとし、フランクフルト、アンマインでも凡てのボルデルを移さうとして何れも失敗した事がある。實行の出來なかつた原因は婦人運動が矢釜しかつたからで、當局者として廢止の結果が旨く行かず、色々に惑ふてゐる狀態を此一事によつても看取し得ると思ふ。

淫賣政策の根本の問題に於て、眞面目に國家の將來を思ふならば、何人も眞面目に解決の道を講せられたい。問題は凡ての國民の上に投げられてゐるのである。

撲滅せられたる私娼の救濟に就ては、市民諸君の同情により下女なり其他に生活されるやうに御助力を願ひたい。

嗚呼山室夫人

益富生

故山室機惠子

我等が敬愛する救世軍大佐補山室軍平氏の夫人機惠子（享年四十三）女史は去る七月十二日午前十時四十分といふに永へに此世を去つて天國の生活に移られた。

私が先頃、旅行先きにて病氣に罹りし際の如き種々と御心配下され、病院に見舞狀を賜はつたり、大久保の拙宅に態々荊妻を慰問されたり致したが、見舞はれ慰められた私は回復してまだ暫くは此世に殘る事となり、反對に見舞ひ、慰問して頂いた夫人は私より先きに天國に入らるゝ。實に計り難きは人の身の上である「されば怠らずして守れ爾曹其の日其時を知らざれば也」とのキリストの御言が身に泌みて感ぜらるゝ。思へば三年前私の長子が此の世を去りし時、夫人はどんなに私共に同情して下さつた事でせう。彼の時の夫人の愛を湛へ、悲みを催したお顔が、今でもあり〳〵と私の眼前に浮んで來る。嗚呼なつかしい夫人であつた

基督教信者にありては死は只永遠の世界、神の國に入る門で、世の人々の常の如く、消滅、寂滅といふ樣な意味に於ては我々には何の失望も、苦痛も、恐怖もない。然し一二年の後には屹度歸つて來る親しき者の旅を、海岸に又停車場に見送つてすら、別離は自づと悲みを催す習ひ、今や肉にありては再び相見る事の出來ない離別の際に臨んで、自ら悲哀を感ぜざるを得ぬのも人情の自然である。とはいへ、此場合に於ても我等の悲哀は毫も失望、絶望、恐怖、苦痛を意味せずして、恩寵と希望と感謝と讃美を含んだ悲哀である。實に永遠の世界に望みを有する者は福なる哉。「さして行く望みは高しパラダイス」此高き望みありて別るゝ者はおくる者おくらるゝ者も誠に幸福と曰ねばならぬ。

夫人の眠られしを、或人矢島楫子女史（八十三歲にして夫人が師として仕へし人）に告ぐれば、老女史少しも驚かず、周章てず、靜かに口を開いて羨やましいやうな風情で「アヽ樂になつたのですネ」此の一語實に無量の意味を含蓄す。蓋し故夫人、此世にありては其負へる重荷に定めて疲れも出でしならん、されど今は肉を離れて靈の人となり眞に「樂になられた」のである嗚呼樂になられた。樂になられた。世の人の怖ぢ惑ふ「死」に打勝ちて、天に凱旋し、永遠の樂郷に入られた「死の刺は何處に在りや」。

若し我等の望み此世のみならば、衆の人の中にも尤も憐れむべき者なり。然れど今キリスト甦りて寢りたる者の復生の首となれり。

壞る者は必ず壞ちざるものを衣、死ぬるものは必ず死なざるものを衣るべし。

＊　＊　＊　＊　＊

遮莫此場合に於て、我等の當になすべき事は故人の遺せる教訓を學ぶ事である。いで少しく夫人の逸話を聞かんかな。

○生立ち及び學校

機惠子夫人は明治七年十二月五日の生國は岩手縣花巻町、家は藩士佐藤庄五郎氏の長女である。小學校を出で、後東京に來り、巖本善治氏の明治女學校に學ばれた。明治女學校は其當時に於ける女子教育の最高學府であつた。

卒業後夫人は一番町の教會の傳導師となり、日曜學校の教師となり、又婦人矯風會の書記などを務めて、只基督の教を弘め、世を救ひ、滅ぶる靈魂を救ふ事に熱中して居た。然し教會や矯風會の働きだけにては女史の燃ゆるが如き熱烈なる傳道の精神は滿足を得る事が出來なかつた。而して遂に救世軍に投じて始めて「我當になすべきの務をなせり」との眞心の滿足を感じたのである。さるにても、慕はしき女史の氣高い精神である。世の人は可成氣樂に、氣樂にと、其負ふ荷物の少しにても輕からんことをのみ慮かりつゝあるに女史は可成重荷を重荷をと探し廻り、救世軍に於て其重荷に尋ね當り、十八年間其を背負ひ通した。而して遂に其重荷に壓せられて夫人の肉は破れたのである。

○結婚に對する理想

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

玆に神田三崎町の割長屋、三圓五十錢の家賃十一疊の鹽屋に一枚の煎餅蒲團をば同居人さ引張り合つて、寢て居た一寒生があつた。而して晝は大道演說に咽喉を枯らし、時には食ふものなく絕食し又はパンに味噌を塗り、水を飮んで漸く饑を凌んで居た事も屢々であつた。然るに其當時に於ける最高の女子敎育を受け、其近親には社會的に立派な地位を保てる者を（其令兄は今海軍大佐で敎育部長たり其他槪れ榮位にあり）有せる深窓の淑女が右の割長屋の主人に嫁する事さなつた或人は其結婚式に立會つてさめ〴〵さ泣いたさいふ。嫁御寮が、之から先き、どんな難儀苦勞に遭ふことを受くるであらうかを思ふての同情の淚である。又或人は窃かに冷笑した。當時、一般の社會からは有ゆる嘲罵輕蔑の的さなり、基督の敎會からすらも多くは誤解を受けて居た救世軍の惡戰苦闘の渦中に自ら身を投じて士官さやらさ結婚するさは何さいふ物好きだらうさいふので。

さて此新婚の若夫婦は誰なりしぞ、卽ち、男は、日本救世軍の總大將山室軍平氏で、女は今次逝ける機惠子令夫人であつた。

ア、此結婚、其ものが旣に夫人の並の夫人でない事を示して居るではないか。今の女たる者多くは金もあり地位も高く出來れば八ヶ間敷い姑舅もない、安樂さ榮華さを理想さする者、百中の九十以上であるに、女史が結婚に對する理想は世の常のそれさは全く極端に異なつて居た。

○雄々しき女丈夫

私が大隈老侯に夫人永眠を齎らせし時、侯は「エライ女であつたに」と痛く之を惜まれ、わざ〳〵人を遣はして其葬儀に會せしめた。聞く、始めて救世軍を大隈老侯に持ち込んだ人も夫人であつたさ。明治三十四五年頃、救世軍がまだ世の人の蔑視を受けて居た時代に夫人は侯爵を說得して救世軍の同情者、援助者たらしめた。

故山室夫人の受持たれし最初の婦人ホーム

實に夫人は確かに女丈夫であつた。前陳の結婚事情を聞いただけでも、確かに其女丈夫の氣慨を偲ぶ事が出來るが、內には六人の母として外には日本救世軍の總大將たる大佐夫人さして、內外に雄々しく戰闘をつゞけた。救世軍の女性達が夫人を以て「救世軍の母」さ言つて居たのは夫人に於て適當な稱號であつた。

○彼女の武士道

金森通倫氏は葬儀の說敎の一節に曰く「夫人は武士道の精神によつて育てられたる淑女であつた。夫人が救世軍に入りし動機に就ては之迄ついぞ誰にも——夫軍平氏にも——語らなかつたが、死に臨みて始めて良人に打明けて「武士道の精神を以て、基督敎を受け之を世に行はん爲であつた」又「救世軍は基督敎の決死隊である。唯武士道を以て基督敎を行なうてのみアース大將の精神を繼承することが出來る」さ語つた。所謂武士道の精神さは何か、其解釋にはいろ〳〵あらうが、女史の武士道は所謂「花は櫻木、人は武士」さの諺に現はれたる武士道であつたさ思ふ。櫻、櫻「三日見ぬ間の櫻かな」櫻は散る！散る？之れ彼女の武士道であつた。而して彼女は今や散つた。見事に散つた我等も亦散らればならぬ。國家のために基督のために。」我等をして決死隊の名を辱かしめざらしめよ」

○優しき妻

かゝる雄々しき女丈夫型の婦人であつたが、一方に於ては又實に優しき妻であつた。夫山室大佐は多用の身で夜などの歸りも隨分遲く十二時を過ぎて歸る事も數々ある。然し如何なる場合に於ても夫人が玄關に之を迎へぬ事はなかつた。

夫人は其病床に、夫君大佐によりて介抱されつゝある間も其臨終に近き身を以てして——、尙ほ團扇を取りて看護中の大佐を煽いで風を送り、夫君をいゝいゝたはる事をやめなかつたさいふ。蓋は大佐は平素多忙にして家にあることさ極めて稀に、夜遲く歸宅しても、家人さ

物語りする事は稀であった。で、恐らく一生涯の間に最も多き時間夫婦一室にあった事は今度の病氣の場合のみであったかも知れぬ。そんな譯で夫人は此夫君に介抱さるゝといふ珍らしき出來事を最も光榮に感じたのみならず、甚だ相濟まぬと思ひ又幸福に思はれた樣だ。

葬儀の席上會葬者に對し、山室大佐は曰く「私に二人の感謝すべき婦人がある。一人は片山里の百姓の家内であった私の母である。私の母の側には只九年間居って其家に養はれたが、彼女は私の爲に、滋養品といへば只鷄卵の外には何もない山中で其卵さへも之を斷ちて、私が健かに成長し世の中に厄介をかけぬものとなり、世のため人のため役に立つ者となるやうにと識らざる神に祈りを獻げた。他の一人は私に妻と呼ぶとを許したる機惠子である。彼女が自分の爲に盡し救世軍人として今日迄兎も角も最善の努力を續けるとが出來たのも實は彼女に負ふ所が至って多いのである。然に自分は、一向夫としての務を忠實に行なふとが出來なかった、之のみ今となりて悔恨に堪えない點である。」

大佐は更に語を次ぎ種々の美點を語られ、其夫婦としての神聖なる愛情は言々句々に迸って居った。會葬の一夫人之を羨んで曰く「女もあれだけに其良人にアップレシエートさるれば本統に滿足ですね」山室大佐夫妻は眞に理想的の夫婦であった。

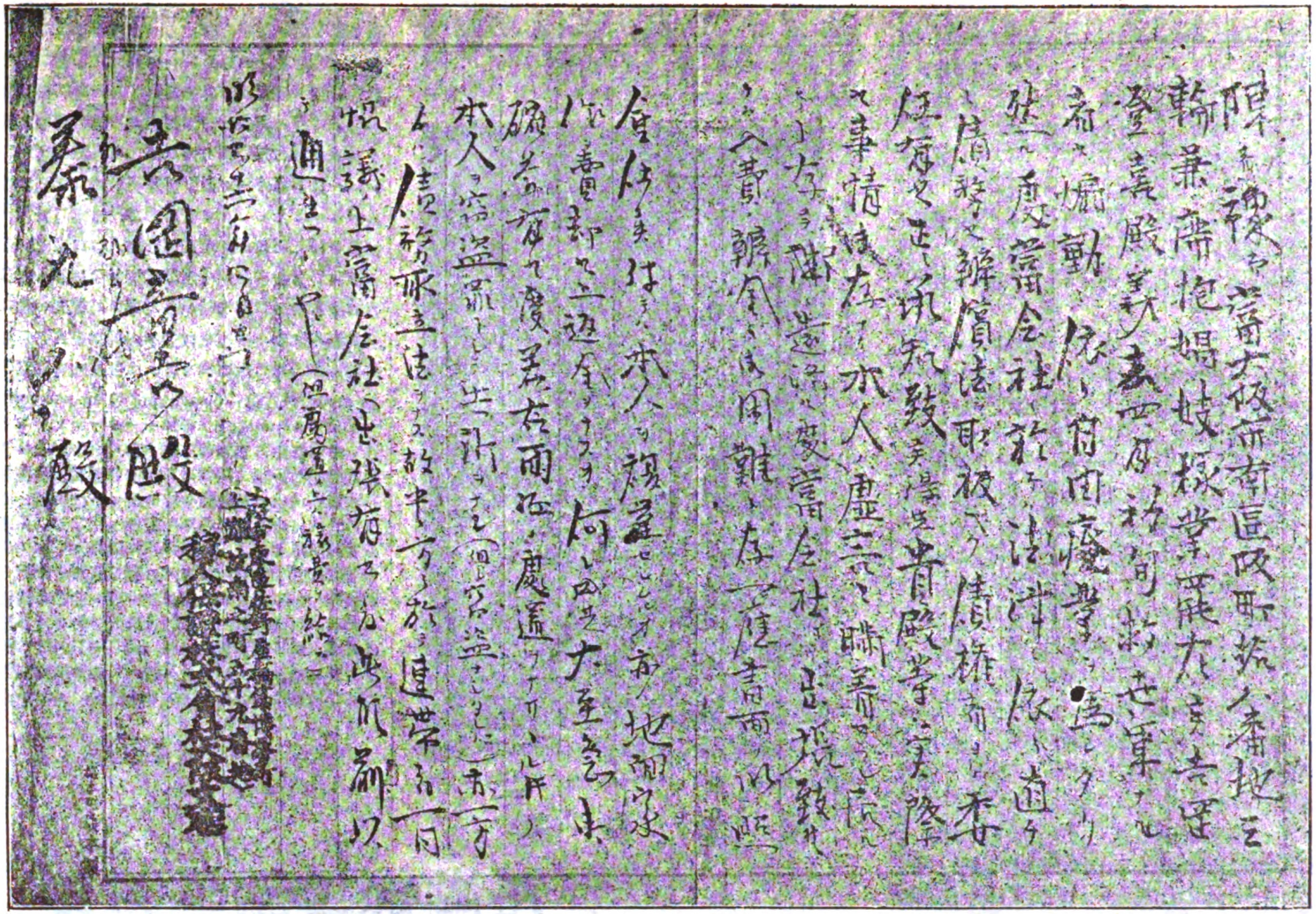
○理想の最後

機惠子夫人の最後は實に見事なものであった。松田院長が一士官に對して此容態では醫學上からはどうしてもコ、二三日しか持てない筈であるが、大佐に知らしたものであらうか」と相談したら、其士官は直ちに其儘を大佐に傳へた。大佐は之を聴いて其注意を謝し直ちに病床に行った夫人は昏々として眠って居る。殆んど意識があらうやうにも見えぬ。聞こへるやら、聞えぬやらも分らねど、せめては良心の慰安のために、「長い間、實によくやってくれたが、自分としてはどうも行き届かなんだ事で……」とそれとなしに詫言を述べらるゝと、夫人はカッと眼を見開き、「時こそ來れ」と言ったやうな態度で、而かも極めて靜穩に、嚴肅に、夫人は徇々遺言を始められた。遺言といっても衣裳の事や、財産の事が一句でもあるではなし其始めより終りまで悉く心靈的宗教的の事のみである。先づ世にありて最上の幸福なる生涯を送らせて頂いた神の御恩寵を感謝し、又最後迄其良人の愛を受けし事の喜びを述べ而して救世軍人に對しては「幸福は只十字架の傍にあり」と遺し、友人知己に對しては「我望みは只十字架にあり」と傳へ、其七人の愛兒達に對しては只「神第一の生涯を送るべし」と訓告し、更に愛兒達のために祈禱をなしては、此小供等の兩親を導きて、有用幸福なる生涯を送らしめ給ふた御神に此小供等を任せ奉る、彼等をして己が才智によらず、神の力により世界最大のものなる愛の生活を營む者となさせ給へ」と言ひ、書ければ書き度しとの望みにより白紙を其頭上（臥床して居らるゝ）に翳せば、震へる手に筆を執りて先づ、愛兒のために「神第一」の三字を書し、更に我が望みは只十字架にありとの字を定かならずも書き了り。更に又知己の人々に「一々白紙を書き度き所なれども最早それは叶ひませぬ、せめては手型なりとも」と言ひ掌に墨汁を塗らせて之を白紙に印し、「謄寫版に刷ってでも送りて戴き度し」と望み、看護中の姪なる人を顧みて「あなたなんか、死人の手型なんぞを持って居ると、幽靈が出はしないかと、却って氣味が惡いでせう」と諧謔を交へたりなどしつ、英雄豪傑も死の前に立ちては動もすれば色を喪ふ然るに女史今や臨終に瀕し、備さに最後の遺言をなしつゝ諧謔など交へて平然たる其餘裕嗚呼―驚くべき確乎不動の安心立命、あるし斯くて萬事了りて後更に感謝して曰く「二日前の瘧疾の砌に若し息切れてありたらんには、何をも言ふ能はずして逝くべかりしに、斯くも凡ての事を言ひ盡して逝く事の叶ひしは全く、神の惠み深き御攝理なりし」と深く感謝して徐ろに最後の瞬間を待たれた。其神々しき臨終の光景は實に日本の「救世軍」の母たるの名に背かなかったのみならず、又凡てのキリストの徒の模範的死であった。

□個人消息□

□島田三郎氏（會長）　輕井澤別邸に家族同伴避暑中
□安部磯雄氏（副會長）　同上
□江原素六氏（評議員）　基督敎傳道の爲め渡鮮
□内ヶ崎作三郎氏（理事）　學術講演の爲め關西へ
□益富政助氏（理事）　此程漸く健康となり近く關西地方へ出張
□山本邦之助氏（理事）　富士裾對なる東山莊に
□小松武治氏（理事）　同上
□宮田修氏（理事）　東北地方に轉地靜養
□松宮彌平氏（理事）　輕井澤に家族同伴避暑中
□矢島揖子女史（副會長）　北海道へ旅行の筈なりしが未だ元氣恢復せず在京
□西村勘之助氏（理事）　青森縣へ旅行
□油谷治七郎氏（理事）　在京、新に友愛會に入りて勞働問題に盡瘁せらる
□伊藤富士雄氏（理事）　在京婦人救濟に從事

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY



本文は明治三十六年自由廢業防禦保險會社が自ら廢したる娼妓の親元へ送りたる手紙である

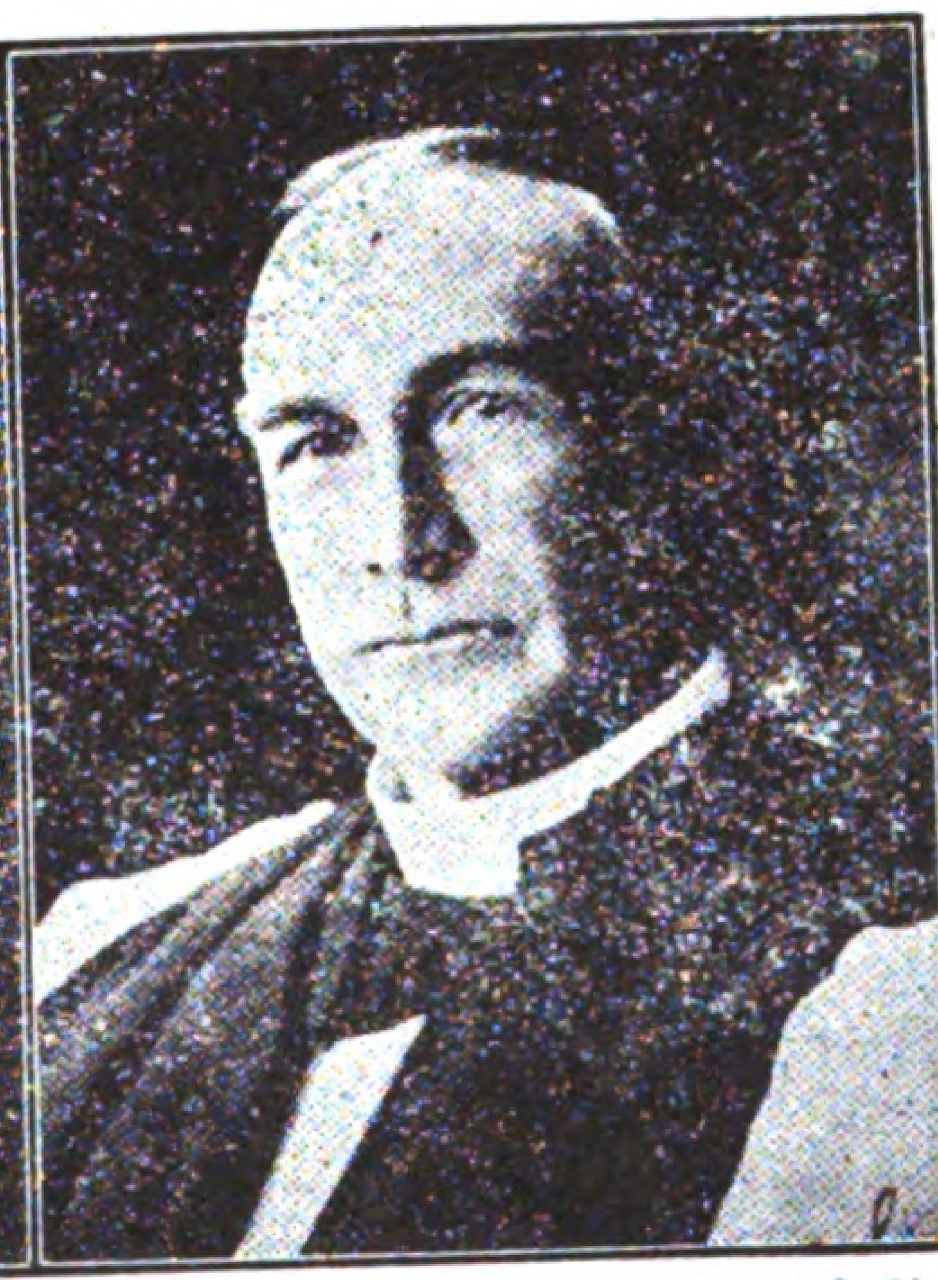
萬國廓淸會發達史（一）

横山栖雲

□英國之部

The National Vigilance Association は國民自警會又は國民廓淸會とでも譯すべき者であるが、之は公娼制度は申すに及ばず、男女の關係等に就て腐敗せりと認めたる者を矯正せんとして起りたる者で頓て我が廓淸會の如き働きをなしたる者である。今其の發達の歷史を英國の部より始めて歐洲各國の夫に及ぶまで一々略說せんとする。元より略說であるから興味は淺いが。萬國が此の問題に付て如何に注意しつゝ活動しつゝあるかを想像することが出來て其が我國廓淸運動の參考になれば、吾人の所期は達せられるのである。此の歷史の資料は全然ウ井リヤムアレキサンダーコート氏の エ、ヴイジョンエンド(A Vision and Its の Fulfilment)に據つたのである。

英國に廓淸會が組織せられたる以前に於ける英國倫敦の道德は如何の狀態であつたか、之を詳しく描寫することは頗る困難なる事であるが、兎に角各海港又は守備兵の駐屯地及び其附近直徑十五哩の地內には至る所淫逸の風が行はれて居た事は明かな事で、之を矯正せんとして大に努力したのはジョセフインバトラー夫人であつた。彼は實に本國のみならず外國に對しても此方面に於ける勇者で、當時彼が眼に映じたる英國一般の道德は非常に低く且つ亂れたる程度であつて、そして道德問題に關して一般國民の意見は寧ろ自由に放任するか或は却つて放縱なるに贊成して居たので、新聞紙上に顯はれたる記事も、一般の生活も皆不純不潔を以つて汚されて居たのである。何故に國民の道德が低き標準の下にあつたかの原因に就ては種々なる議論もあるが、何人も道德の低かつた事は決して疑ふ餘地がない。そして其腐敗の原因は全く政府及び國家が罪惡を公許せる事に密接なる關係を有して居た事は識者の認めた所であつた。否今日にても此意見は何人も異議のない所である。假ひ其原因は何であつたかに拘はらず、社會の各階級を通じて一般の道德は今日の其よりも甚だ低き程度であつた事は確かな事實で、多くの男子も女子も其事を知覺して居たのみならず、之を何とかして改善したいと努力したのであつた。爾來三十年を經過し、其當時此等の改善の爲に大に奮闘した人々の內に今日生存して其奮闘を繼續して居る者は甚だ僅かである。彼の有名なるジョセフインバトラー夫人が公娼制度に對して反對の聲を揚げた時、敎會の會員にして敎會の保護の下に言語にも思想にも將行爲にも人間の生活をして純潔ならしめんとして大に國民の間に絶叫し、東奔西走したる婦人があつた。是はエリス、ホプキン孃であつた。彼は神の使者として蹶起し、個人及び國民全般の廓淸問題に就て、他の說敎家も演說家も同問題に付ては到底達する能はざる社會の大部分に訴へることが出來たのである。其當時重大なる出來事はバトラー夫人の努力と其同志者の夫々が造り上げた輿論に動かされて、政府は傳染病規則として世に知られたる法令を廢止した事である。



副會長ウイニントン、イングラム氏

同フオーセツト夫人

□　□　□　□

此規則は廢止せられたが、其と同時に他の問題が起つた。其れは當時の刑法には若き婦人を保護する上に大缺點があつて、其が爲に多くの婦人が悲境に沈淪する樣になつて居たので之を改正せなければならぬと云ふ問題であつた。バトラー夫人などは此事に就て政府に訴へたが政府は聾せるが如く、何事をも言はず國會に請願を出したが、國會も亦顧みなかつた。そして此論爭は、其後ダイヤー氏及びギレツト氏とが、英國と日耳曼との間に行はれた少女賣買に對して反對し

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

遂に之が公衆の注意を喚起するに至るまで繼續したのである。ダイヤー氏の議論は其始めに當つては政府より反對を受けたが、種々に研究せられた結果、其眞理なることを認めらるゝに至り、調査委員の任命を見るに至つた。ダイヤー及びゼレット兩氏の議論は此等委員の調査材料となり、委員は調査の結果其主張の確實なるを認め、刑法修正が當時に於ける焦眉の急なるを發見し、此に關する議案は再び國會に提出せられ、議會に於ては之を委員に附托して調査することゝなつた然し委員は此刑法改正の不必要なることを決議し議會に報告したので、議會は又遂に之を否決したのである。

□　□　□　□　□

殆んど此時ジョセフインバットラー夫人と「救世軍の母」と呼ばれたるブース夫人は、當時ポールモールガゼット新聞の發行者たりしダブルユー、テーステッド氏に、倫敦に於ける若き婦人と小兒に對する恐るべき不道德の狀態を告げ、其紙上に其事實を悉く摘發し斯くして若き婦人を保護するが爲の刑法改正案をして議會に通過せしむる事に努力せられんことを乞うた。ステッド氏は此の要求を容れ、先づ其事實なるや否やを確めんとして、尤も卑むべき罪惡の行はるゝ地獄中に自ら踏込んで、數週間を其調査に費し、遂に終身恢復すべからざる墮落に陷つた魔窟の光景を實地目擊した時に、彼は此の魔窟に對し之を滅せずんば已まざるの大決心をなし、紙上に其實地の所見を發表した。此記事が一度顯はるゝや其反響は英國の隅々までに響き渡り、是迄年々議員等の爲に否決の運命に葬られたる刑法改正案をして是非とも議會を通過せしめればならぬとの決心を以つて、各地に義人の蹶起を見る程までに國を覺醒せしめ國民の心を動かした。之に由つて再び議案は國會に提出せられ、總ての委員會をも通過し、最後に國會を通過し遂に法律となつたので之を「ステッドの條例」と呼ばれるので、此の改正案は全くステッド氏の功績である。

一八九九年萬國廓淸會倫敦會議

□　□　□　□　□

ガゼット紙に由つて主張せられたる刑法の改正は尙外に一事を遂行したのである。其は議案が法律となつた時、國民は此の條項を完全に施行し、兒童が此の法律に由つて完全に保護せらるゝかを監視する爲に一機關の創設を求めた事である。即ち「近世のバビロン」と稱せらるゝ倫敦に於て日々夜々行はるゝ宴會に如何に恐るべき罪惡が行はれつゝあるかを暴露し全文明世界を戰慄せしめた時、人民は直ちに其怪物(娼妓)を絕滅せしめんが爲に邸宅家屋委員なる團體を設け、老練家を以つて其委員に當て、邸宅家屋を巡視し、此の罪惡の行はるゝ疑ひある者を摘發せしめんとの要求であつた。此要求の叫びに答へんとして生れたのが英國廢娼同盟會である。そして一方に於ては熱心にして正義的の奮怒と、他の一方に於ては此の罪惡に關係ある者、或は其に由つて利益を得つゝある者等の反對と脅迫との間に、セントジエームスのホールに於て盛大なる發會式を擧行したのである。故に此會は其始めに於ては決して有利とは言はなかつた。そして一時の熱情に由つて產出し發達した總ての事物の如く、程なく死滅するであらうとの兆候は少くなかつたのである。

暗黑面の殘酷なる罪惡は斯くして突然に發見せられた。そして自警會は此等の惡事を改めて正善なる者となすべき使命を果さればならぬ。與へられたる損害に相當する人々の所罰を求むる所の使命を果さればならぬ。又男も女も同等なる道德上の標準の上に立たねばならぬとの國民一般の意見を尊重し、姦淫罪は男女雙方とも同罪であることを示す爲に男女共に同等の刑を科することを主張するのである。

國民自警會(廓淸會)の創立に就ては前後二十五人の人士が之に鞅掌し、其中已に永眠せられたる者十二人あり。其中有名なるはサミユールモーレー氏、ガルザナルマンニング氏、ジョセフインバトラー夫人、アールシーモルガン氏等がある。そして創立者中今尙生存して其事業に活動しつゝある人々は十三人ある。

天鼓の響き

教育家優遇法の誤

水津千雲

千歳一遇の御大典に際して民間教育家の數々が叙勲の御沙汰を受けたが、之れは政府が教育家優遇の意味に於て奨上したものだと聞くが、政府は教育家が教育に盡瘁したのを表彰するのが教育家の優遇だと思つて居たら大した間違である。近來小學教員をして奏任待遇にすることが大流行であるが、これも軍人の殊勳者に對する表彰と同じことで、誰れも其表彰者以外のものが肩巾が廣い氣持にも何もならない、却つて表彰されない功勞者は不平を鳴らして居るに相違ない。然るにこの論功行賞をしたのを教育家の優遇といひ政府當事者も左右思つて御坐るやうだが、よく／＼胸に手を當てゝ考へたら直ぐに了解出來るだらうと思ふ。

抑教育家といふものは一面からいへば一種の精神的道樂者である。誰でも出來るものではない殊に民間に於ける教育家はさうであつて、精神的方面に最も大なる趣味を有して居るから出來るものである。其精神的事業者たる教育者而も國民教育に從事するものを優遇するには、徒らに物質的方面よりは教育者の墮落を來たす基である。無論教育者といへども物質の供給、物質的意味の支配を脱することの出來ない事は明かであるが、苟にも精神家を優遇するには而も其れが教育家を優遇せよといふ輿論に添はむとするならば、精神的に普遍的に優遇の方法を講ずるでなければ何の役にも立たぬ。

筆をとるさへ穢し

横濱 梅翁

廢娼論者と存娼論者が口を酸くして論じて居る事柄の主張は、一は人道の存廢論で、一は花柳病防止で憂國者の積りであらふが、存娼論者の云ふ所は重々失敗である。第一人道を無視する憂國者と云ふ者はある可き筈がない。人道があるから國家が有るので人道が無ければ國家がないのである。且つ人道を無視しても花柳病を防止すると云ふ事は甚危險な論である。花柳病防止に益あるなら人の生膽を飲ましてもよいと云ふと同一の不合理で、公娼と生膽と一間髪も距らぬ同じく暴戻極まる制度である。一歩を退いても我同胞を禽獸ならしむる公許である。義と罪との論であるから其の理窟が立たぬのは當然である。

最後の最後に歩を退いて考へても、實際から存娼して花柳病を防がんとするのは、泥を以て泥を洗はんとする論である。醫者の學説を待たずとも公娼を置いて

奴隷の姉妹から

妾は吉原の一娼妓で厶います毎日此の賤しき浮川竹の勤めの身を泣き悲んで居る者で厶います。

妾は一昨年の三月に種々な複雜した事情から今のやうな身上となりました、涙の内にもう二年餘を過ごしました、私は當年廿二才で厶いますが、一度び此吉原へ足を入れたからには、ごんなに悲くも辛ひ思も押し通して六年間の年期は是非勤めなければならぬものと覺悟をして居りました。處が一昨年の暮頃より妾の許へ來るお客の一人が或時「自分は今迄此吉原へ出入したが、考へる所があつて今日限り必ず來ないから、お前も一日も早く廢業して眞面目な人間になれ。今日來たのは夫丈の用だ」と申されて歸りましたがそれからといふものはかげもすがたも見えませぬ、そして其の時に御會發行の廓清自由廢業案内を一册置いて行かれたので、讀みましたが夫が動機となつて妾は大へんさとる事が出來ました。けれども妾は其後毎日／＼胸を痛めて居りました。といふのはお笑ひ下さるな、女心の何となく決心がつきませんで、恐い／＼と思ひながら今日迄、つい日を過ごしてしまいました。そこで廢業しても自分の身のふり方が思ひやられ、前の人の許へ手紙で御依頼いたしました。すると昨日の事其の返事が來まして「お前さんが眞面目な心になつたのは實に嬉しい」出來る丈の力を添へてはやるが自分は未だ修業中の事故廢業した後の事迄は迚も世話は出來かねるとの事で厶います。

こうなつては妾も決心して、折を見て此吉原をぬけ出して御會へ參りますから、どうぞ廢業の力添へをお願ひいたしますが御聞き届け下さいませうか。そして着のみ着のまゝで出ますから婦人ホームとやら申す所で、一ケ月なり二ケ月なりの間保護をして下さるでせうか、御面倒樣でございますが、どうか、妾の身の上をあわれと思召して御返書下さいませ。

御返書の名宛は妾の本名で御願ひいたします。差出人を西川と御願ひいたします

吉原揚屋町英氣樓内
明石事
口×うた拜

月日

廓清會御中

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

花柳病を防ぐと云ふ事は駄目である。若し公娼を置くならば毎日生娼を取り替へて公娼にしても、花柳病防禦など夢にも見られる者でない。兩論者の論點は梅黴治療が行き届くか否の立證であるけれども、實際の内廓を見るなら檢黴とか洗滌とかゞ丸で遊客の爲めに無益な者である。公娼の盛んな者は一夜に三四人の客の相手をするであらふ、少なく共二三人位は客をとるのであるから、何程健全な公娼でも先客の置て行つた黴毒を第二第三の客に移植する役目を以て居る。であるから醫者でなくとも檢黴とか治療など無益であると云ふ事は知れ切つて居ると云つたとて客一回毎に醫者が顯微鏡診斷も出來ず、唯さつと洗つた位で何にもならぬであらふ。一體公娼は丸で路傍の共同便所と擇ぶ所がないから、何程完全な驅黴をやつても到底花柳病防止など駄目である。黴毒の傳播力は私娼よりも公娼は激烈であると思ふ、共同便所的醜風は私娼よりも公娼の方が甚しい、私娼はいやな時は罷める自由を持つて居るが、公娼の方は旦那前左樣に勝手に濟まない、否が應でも黴毒傳播方法をやられねばならぬから、口實にもならぬ。

弱き者よ汝の名は男也

色川榮子

我輩は紳士で御座るの學者で御座るのと大言を吐きつゝ、國家を料理する任にあたり、教育に、或は實業に、或は醫者に、官吏にあらゆる階級の男子が堂々として世を憂ひ國を愛すと揚言して居る。

彼等は白くぬりたる墓の如く一見美はしく嚴めしく見ゆれども、其の實の化の皮を剝ぎ取れば、そこに腐れたる屍が累々として、汚辱極まる行爲を平然として行ひ居るではないか。

噫!偽善禍ひなる哉偽善なるパリサイの人、よ爾は白くぬりたる墓に似たり外は美はしく見ゆれども内は骸骨と諸の汚穢にて滿つ、蛇蝮の類よなんぢいかで地獄の刑罰を免れんや。とキリスト君は曰ふた。實に偽善なるパリサイの人の如く彼等は地獄の刑罰を免れない者である、何故肉の慾に克ち得ぬであらう、男子の一言金鐵の如しとか、されど多くはこれ口頭の義人のみなるを如何。悲しいかな!男子の意氣や今いづこ……

弱はき者よ汝の名は男なり。と私はいひたい。

故山室夫人が最後に出席せられたる東京婦人ホームの歡入親睦會(本年正月十六日)

* * * *

女……いかに女は賤しめられて居るか、男の寄生蟲として男に依らずば生存せられぬ者と思ふて居る。

いつまでか男に弄ばれて滿足して居るか、今や大正の御代である、醒むべき時到來せり無告の姉妹が社會の下層に奴隷の軛に繫がれて苦しきしもとに悲痛の叫びをはなち居るを聞かざるか。

大正の婦人よ覺めよ而かして……立て……無益の虚飾をぬぎ捨てよ!。

而かして埋れて居つた天來の光を燦然として發揮すべきである。

靈臺深く神より給はりし天眞の至寶あり。一時も早く見出すと同時に男の片手とないて國家のため奮起すべきである、男女協力して社會の改良に盡瘁し可憐なる無告の姉妹を奴隷の軛きより放ち、自由の民とせしめればならぬ。

覺めよ大正の婦人……而かして人道戰のため戰へ!

熱血紅涙

□**田丸よね君**（福島）　葉書にて申上候通四人分御送金仕候間御記入被下度、目下會員募集中に有之廿名に相違し候節は、支部發會式擧行致し度希望に候。

□**尾花新造君**（長野）　小生事近來事務激忙の爲め頓さ會員募集を致さず候段、何卒御容海被下度願上候。間も無く事務の閑散期さなる可く、其節は舊に倍し一生懸命にて入會を奬勵し廻る心意氣にて、目下夫々下準備手配中に有之、右諒せられ度。尙機關雜誌には可成家庭欄を數頁增加なされては如何に候哉、余りに高尙過ぎて小生等には少し六ツ敷しき感あり、其上文藝等御增頁被下候はゞやさ思考せられ候間、何卒御研究の上御採用の程小生より篤く奉懇願候。

□**瓦本淑子君**（下ノ關）　今度雜誌「廓淸」が當方へ參り純潔なる文字を市民に觸れしむる事さ相成り候儀は誠に感謝に堪へず候、早速七月號三十部代金金貳圓拾錢御送付申上候間御受取下度、來月は尙增加する見込に有之候。

□**中里正次郎君**（熊谷）　敎育界の腐敗!! 國民品性上に於ける一大危機!! 風敎の破壞! さは京都某新聞紙の報ずる處曰く『京都府乙訓郡淀村小學校にては橋本町の貸座敷業に屬する藝妓を態々學校講堂に舞はせた。加之、夫等藝妓卽ち醜業婦をして同村役場に宿泊させ侍合式其儘の藝當を發揮したり』さ喟々。

□**有馬純雄君**（深川）　這回橫濱救世軍小隊より深川小隊に轉任相成候に就ては、一層の努力を盡し會員を募り可申、別紙六名は八月號より御送本被下度追付十名位は募るを得べく、右通知迄天父の惠貴會の上に豐ならん事を冀ふ。

□**內山完造君**（上海）　貴會の主旨に贊成致し去六月入會僅に一部の雜誌が殆ど首引の分取り讀みの狀態なりしは、之偏に當方の諸氏には廓淸の要ありさ思推し居たる矢先なればにて、其結果六月號は購讀希望者協議の上卅部送付を相願申候樣の有樣にて、寔に此善頁なる刺戟は其貢献する處甚大なりし事今更喋々するの要無之、七月號も同樣卅部八月號は又々激增の予定に有之、右通報まで早々。

□**松村サト君**（神奈川）　過般第五回總會の末席を汚し、役員諸先生の熱心なる御說を拜聽する事を得候は今更乍ら感謝の辭なき程にて、其後大に發奮する處有之、每日暇さへあらば會員を募り僅にても社會人道の上に幸の來らん事を祈り居る次第に御座候。左記御兩名正會員に御加名被下度引續き運動致す可く候。

編輯之後

■盛夏の候謹しんで會員諸君の健康を祈ります。

■每度雜誌發行が遲延致しまして恐縮です。一方に實際運動に從事してゐる爲めに、勢ひ編輯も遲れ勝になるのですが、此邊は諸君の御同情を切望いたします。

■來月號は例によって休刊致します。而して十月號を倍號さします。如何なる新裝を以て如何なる堂々たる姿を以て諸君に見ゆるか刮目してお待ちを願ひます。伊藤主事は此期間を利用して安部磯雄氏の男女問題論集さ、島田會長の風敎問題論集を作つて見たいさ云つて居られます。

■本會々費は從來會費切の場合は、集金郵便によつて頂戴してゐましたが、其手數料金が高くなつて、高貴な運動費を少くする事が如何にも殘念ですから、七月號から雜誌の封皮に「會費切」の印を押捺して振替にて送金を乞ふて置きましたが、早速御送金下さいまして事務上に手數さ費用さを大分省く事を得たことを感謝致します。

■投書に對しては出來るだけ紙面を割きたいさ思つてゐますから男女問題に關するものならば、論文たるさ散文たるさを問はず、如何なる形でもよろしうござゐますから、廓淸獨得の「天鼓の響き」乃至「熱血紅涙」に所感を述べて頂き度いさ思ひます。

■廓淸會が公娼擴張に反對するのを勘違へして、私娼撲滅に反對するやうに解してゐるものもあるらしいですが、浸分曉漢といふものは困つたものです。本會の理想は男女貞潔にあるので、公娼も私娼も撲滅すべきものたるは、勿論ですのに、殊更に私娼に加擔するが如く云ひなす者あるは寧ろ滑稽千萬で、その淺慮を憫れむの情に堪へません我々は私娼撲滅には贊成公娼擴張には反對さ其態度を至極明白にしてゐます。雜誌の上にも明瞭です。

■然るに丸山保安部長は本誌六月號の川路大警視の寫眞さ對象したる彼の挿畫に對し、人格的侮辱を加へられたかのやうに思つて憤慨してゐられるさうですが、それも聊かお門違ひで、あれは事實を寫眞にした迄で一言の噓も無い筈です。あの寫眞が皮肉ならば靑山墓地の事實こそ、最も痛烈な皮肉である。丸山氏が寫眞に憤慨するならば、先づ風敎上から彼の墓前の貸座敷連の寄進物を取拂ふべきである。

■數日前一大帝國の記者山田某さいふ方が本部へ來て、伊藤主事に敎を乞ひたいさか何さかいふてゐた、而して一大帝國に廓淸會の攻擊を書いたから、專門家から見たら可笑しからうが、御批評を乞ひたいさいふて居た。伊藤主事は、あんな不眞面目な雜誌は齒牙にかけないで、評論もせぬさいふてゐた、併し多分十月號に於て最近に表はれた各雜誌の公私娼問題に就て論評を試むる筈になつて居る。（小林生）

大正五年八月一日納本（每月一回一日發行）
大正五年八月一日發行一部金七錢

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　小石川區大塚窪町一番地　久保民生
印刷所　神田區三崎町三丁目一番地　博信堂印刷所
發行所　芝區三田四國町二番地　廓淸會發行所　電話芝五八五五番　振替東京二七〇七二番